

| 授 業 科 目 の 概 要<br>(学校教育研究科教育実践高度化専攻) |   |  |                       |
|-------------------------------------|---|--|-----------------------|
| 科目<br>区分                            | 授業科目の名称   | 講義等の内容   | 備考                    |
| 共通<br>基礎<br>科目                      | I<br>群<br>特色あるカリキュ<br>ラムづくりの理論<br>と実際A<br>(Specialized<br>Theory and<br>Practice in<br>Curriculum<br>Development A) | (概要)<br>学校教育における最も重要な要素がカリキュラムである。カリキュラムをどのように編成し、展開していくかが学校教育の主要なテーマである。授業方式は、講義と演習で行う。まず、我が国の教育課程の基準としての学習指導要領の歴史の変遷とその諸理論、今日の教育改革や教育課程改革を概括する講義を行う。さらに、新しい学校教育の展開と特色あるカリキュラムについて、地域の特性や保護者のニーズ、子どもの特性などの教育諸条件に基づくカリキュラム開発の演習を行い、研究成果をまとめ報告書を作成する。   | (現職教員学生対象)            |
| 共通<br>基礎<br>科目                      | I<br>群<br>特色あるカリキュ<br>ラムづくりの理論<br>と実際B<br>(Specialized<br>Theory and<br>Practice in<br>Curriculum<br>Development B) | (概要)<br>学校教育における最も重要な要素がカリキュラムである。学校現場の経験のない学生は、カリキュラムが、学校教育における最も重要な要素でありそれをどのように編成し、展開していくかを認識できることが重要である。授業方式は、講義と演習で行う。まず、我が国の教育課程の基準としての学習指導要領の歴史の変遷とその諸理論、今日の教育改革や教育課程改革を概括する講義を行う。さらに、新しい学校教育の展開と特色あるカリキュラムについて、教育諸条件に基づくカリキュラム開発の演習をワークショップ形態で行い、研究成果をまとめ報告書を作成する。   | (現職教員以外の学生<br>対象)     |
| 共通<br>基礎<br>科目                      | I<br>群<br>授業の指導計画と<br>教材研究の演習A<br>(Seminar in<br>Lesson Planning<br>and Teaching<br>Materials<br>Analysis A)        | (概要)<br>本演習では、教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間における学習指導構想と指導案作成の理論を習得し、それぞれの授業モデルを学習指導案として明示できる資質と能力の育成をねらいとする。<br><br>(オムニバス方式/全15回)<br><br>(15 米田豊/10回)<br>授業全体を統括するとともに、教科(社会科を事例として)及び総合的な学習の時間における学習指導の構想と学習指導案作成の理論を講義する。次に、現任校における学習指導案を分析し、その成果を発表することをとおして、授業の構想力と分析力を習得する。(学校における実践経験の報告及び考察、分析の演習)最後に、各自の研究テーマに応じた教科における教材研究・教材開発を行い、その授業モデルを学習指導案の形で明示する演習を行う。また、明示した学習指導案を習得した理論に対応した分析視点で、自己評価・相互評価する演習を行う。(学校における実践経験の報告及び考察、分析をふまえたモデル作成の演習)<br><br>(32 淀澤勝治/5回)<br>道徳・特別活動における学習指導の構想と学習指導案作成の理論を講義する。次に、現任校における学習指導案を分析し、その成果を発表することをとおして、授業の構想力と分析力を習得する。(学校における実践経験の報告及び考察、分析の演習)最後に、各自の研究テーマに応じた道徳・特別活動における教材研究・教材開発を行い、その | (現職教員学生対象)<br>オムニバス方式 |

|        |     |  |   |                          |
|--------|-----|--|---|--------------------------|
|        |     |  | 授業モデルを学習指導案の形で明示する演習を行う。また、明示した学習指導案を習得した理論に対応した分析視点で、自己評価・相互評価する演習を行う。(学校における実践経験の報告及び考察、分析をふまえたモデル作成の演習)  |                          |
| 共通基礎科目 | I 群 | 授業の指導計画と教材研究の演習B (Seminar in Lesson Planning and Teaching Materials Analysis B)  | <p>(概要)</p> <p>本演習では、教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間における学習指導構想と指導案作成の理論を習得し、それぞれの授業モデルを学習指導案として明示できる資質と能力の育成をねらいとする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(15 米田豊/10回)</p> <p>授業全体を統括するとともに、教科(社会科を事例として)及び総合的な学習の時間における学習指導の構想と学習指導案作成の理論を講義する。次に、任意の現職大学院生の現任校における学習指導案を分析し、その成果を発表することをとおして、授業の構想力と分析力を習得する。(任意の現職大学院生の現任校における学習指導案の分析の演習)最後に、各自の研究テーマに応じた教科における教材研究・教材開発を行い、その授業モデルを学習指導案の形で明示する演習を行う。また、明示した学習指導案を習得した理論に対応した分析視点で、自己評価・相互評価する演習を行う。(任意の現職大学院生の現任校における学習指導案の分析をふまえたモデル作成の演習)</p> <p>(32 淀澤勝治/5回)</p> <p>道徳・特別活動における学習指導の構想と学習指導案作成の理論を講義する。次に、任意の現職大学院生の現任校における学習指導案を分析し、その成果を発表することをとおして、授業の構想力と分析力を習得する。(任意の現職大学院生の現任校における学習指導案の分析の演習)最後に、各自の研究テーマに応じた道徳・特別活動における教材研究・教材開発を行い、その授業モデルを学習指導案の形で明示する演習を行う。また、明示した学習指導案を習得した理論に対応した分析視点で、自己評価・相互評価する演習を行う。(任意の現職大学院生の現任校における学習指導案の分析をふまえたモデル作成の演習)</p> | (現職教員以外の学生対象)<br>オムニバス方式 |
| 共通基礎科目 | I 群 | 授業での学習支援と指導法に関する事例分析A (Case Study on Educational Methods and Support in Class A) | <p>(概要)</p> <p>確かな学力の形成を促すためには、各教科領域の目標・内容に即して創意・工夫された授業の構成・展開と多様な学習者の条件・状況に応じた高度な学習指導の方法・技術とが統一的に結合して成立することが必要である。この科目では、各教科領域に共通の授業構成・展開の原則と多様な学習者の条件・状況に応じた高度な学習指導の方法・技術のあり方を理解すると共に、具体的な授業実践の事例分析を通して、授業の計画・立案、授業の構成・展開等に関する改善と指導・助言の基礎を修得することをねらいとする。この科目の期待される学習効果は、○学力形成と人格形成との効果的な教育的作用の成立と、○児童・生徒1人ひとりが主体的に学習参加しかかわり合い高め合う効果的な教授＝学習活動の成立のために、○授業の構成・展開の原則、授業構想づくりの枠組み(パラダイム)の共通化・共有化をできることである。</p> <p>(共同方式/全15回)</p> <p>長澤憲保が当該授業を統括し、講義、ワークショップ、ケーススタディにより授業を行う。</p>   | (現職教員学生対象)<br>共同方式       |

|        |     |   |   |                       |
|--------|-----|---|---|-----------------------|
|        |     |   | <p>(13 長澤憲保／5回)<br/>第1回目～第5回目までは、授業観を歴史的・体系的に捉え直し、児童・生徒の発達特性に即した学力形成及び人格形成のあり方（陶冶・訓育過程）と、児童・生徒の主体的な学習意欲を喚起し、1人ひとりが相互にかかわり合い高め合う活動として参加する授業のあり方（教授・学習過程）を、授業構成と授業構想づくりの原則として捉えさせる。特に児童・生徒の学習過程における「つまずき」に着目させながら、学習者の側から授業を捉え構成していく視点を修得させる。</p> <p>(13 長澤憲保, 20 吉水裕也／5回)<br/>第6回目～第10回目までは、長澤を主担とし吉水とのTTにより、それまでの理論的な考察をふまえて、具体的な授業展開の場面において効果的な教授＝学習活動の成立、かかわり合う主体的参加の成立として、どのように授業を構成し展開するのかを、教育者の指導的行為（タクト）に焦点をあて、ワークショップの形式を取り入れ、より実践的に探究する。</p> <p>(20 吉水裕也, 13 長澤憲保／5回)<br/>第11回目～第15回目までは、吉水を主担とし長澤とのTTにより、新しい教育方法・技術を活用した実践事例のケーススタディとして、少人数指導・複式指導、習熟度別指導、多様なチームティーチング等の事例の分析・検討を行い、新しい教育方法・技術の成果と課題等について深め合う。特に、ここでは、より多様な実践事例に則して具体的に検討できるように工夫し、新たな実践事例をも収集させたい。</p>  |                       |
| 共通基礎科目 | I 群 | 授業での学習支援と指導法に関する事例分析B<br>(Case Study on Educational Methods and Support in Class B) | <p>(概要)<br/>確かな学力の形成を促すためには、各教科領域の目標・内容に即して創意・工夫された授業の構成・展開と多様な学習者の条件・状況に応じた高度な学習指導の方法・技術とが統一的に結合して成立することが必要である。この科目では、各教科領域に共通の授業構成・展開の原則と多様な学習者の条件・状況に応じた高度な学習指導の方法・技術のあり方を理解すると共に、具体的な授業実践の事例分析を通して、授業の計画・立案、授業の構成・展開等に関する改善と指導・助言の基礎を修得することをねらいとする。この科目の期待される学習効果は、○学力形成と人格形成との効果的な教育的作用の成立と、○児童・生徒1人ひとりが主体的に学習参加しかかわり合い高め合う効果的な教授＝学習活動の成立のために、○授業の構成・展開の原則、授業構想づくりの枠組み（パラダイム）の共通化・共有化をできることである。</p> <p>(共同方式／全15回)<br/>長澤憲保が当該授業を統括し、講義、ワークショップ、ケーススタディにより授業を行う。</p> <p>(13 長澤憲保／5回)<br/>第1回目～第5回目までは、授業観を歴史的・体系的に捉え直し、児童・生徒の発達特性に即した学力形成及び人格形成のあり方（陶冶・訓育過程）と、児童・生徒の主体的な学習意欲を喚起し、1人ひとりが相互にかかわり合い高め合う活動として参加する授業のあり方（教授・学習過程）を、授業構成と授業構想づくりの原則として捉えさせる。特に児童・生徒の学習過程における「つまずき」に着目させながら、学習者の側から授業を捉え構成していく視点を修得させる。</p> | (現職教員以外の学生対象)<br>共同方式 |

|        |     |  |  |                          |
|--------|-----|--|--|--------------------------|
|        |     |  | <p>(13 長澤憲保, 20 吉水裕也/5回)</p> <p>第6回目～第10回目までは、長澤を主担とし吉水とのTTにより、それまでの理論的な考察をふまえて、具体的な授業展開の場面において効果的な教授＝学習活動の成立、かかわり合う主体的参加の成立として、どのように授業を構成し展開するのかを、教育者の指導的行為(タクト)に焦点をあて、ワークショップの形式を取り入れ、より実践的に探究する。</p> <p>(20 吉水裕也, 13 長澤憲保/5回)</p> <p>第11回目～第15回目までは、吉水を主担とし長澤とのTTにより、新しい教育方法・技術を活用した実践事例のケーススタディとして、少人数指導・複式指導、習熟度別指導、多様なティームティーチング等の事例の分析・検討を行い、新しい教育方法・技術の成果と課題等について深め合う。特に、ここでは、より多様な実践事例に則して具体的に検討できるように工夫し、新たな実践事例をも収集させたい。</p>  |                          |
| 共通基礎科目 | I 群 | 授業における評価の基準作成理論と学力評価法A<br>(Theory of Authentic Assessment and Methods of Educational Evaluation A) | <p>(概要)</p> <p>授業における評価基準の作成理論と学力評価法について、その具体と多様な実践的評価方法について体系的に理解させるとともに、特定授業についての評価基準の作成力と学力評価の実践力を培うことを目標とする。この目標達成のために本授業では各教科・特別活動・総合的な学習の時間における実践的な評価基準作成のための既存理論の見直し、具体的な学力評価法の事例研究などを行うとともに、これらの知見を活かして各教科等の評価基準の作成を具体的に開発する演習を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(16 佐藤真/5回)</p> <p>授業全体を統括するとともに、教育評価の意義、目的、内容、方法等を具体的な実践に即して検討し、授業における評価基準の作成を行い、児童・生徒の資質・能力の水準の程度を把握する方法を教科・特別活動・総合的な学習の時間をもとに考察する。さらに、学力評価法としてのポートフォリオ評価法について、そのルーブリックやモデレーションの方法についても習得できるように、豊富な事例研究をもとにした討議を通してその評価力の向上を図る。</p> <p>(22 永田智子/6回)</p> <p>主として学力評価の理論と方法・技術を担当する。学力評価の意義・目的・対象・内容・方法等に関して、受講生間の討議や講義を通して、これまで採用していた学力評価についての理解をさらに深めさせる。また、自己評価・他者評価・相互評価・観点別評価・総合評価については、具体的な事例の検討や討議を通して理解を深めさせる。さらに各教科における評価基準表等の作成とグループ討議を通して、学力評価の方法について理解させる。</p> <p>(20 吉水裕也/5回)</p> <p>診断的評価・形成的評価・総括的評価について実践事例をもとにして実践的に検討すると共に、相対評価・絶対評価・個人内評価の評価方法について理解し、さらに通知表・指導要録の作成と総括的記載方法の具体について討議し、「指導と評価の一体化」のための実践的評価基準と学力評価方法を実践できる評価力の力量を高める。</p> | (現職教員学生対象)<br>オムニバス方式    |
| 共通基礎科目 | I 群 | 授業における評価の基準作成理論と学力評価法B   | <p>(概要)</p> <p>授業における評価基準の作成理論と学力評価法について、その具体と多様な実践的評価方法について体系的に理</p>  | (現職教員以外の学生対象)<br>オムニバス方式 |

|               |            |  |   |                        |
|---------------|------------|--|---|------------------------|
|               |            | <p>(Theory of Authentic Assessment and Methods of Educational Evaluation B)</p>                  | <p>解させるとともに、特定授業についての評価基準の作成力と学力評価の実践力を培うことを目標とする。この目標達成するために本授業では各教科・特別活動・総合的な学習の時間における実践的な評価基準作成のための既存理論の見直し、具体的な学力評価法の事例研究などを行うとともに、これらの知見を活かして各教科等の評価基準の作成を具体的に開発する演習を行う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(16 佐藤真／5回)</p> <p>授業全体を統括するとともに、教育評価の意義、目的、内容、方法等を具体的な実践に即して検討し、授業における評価基準の作成を行い、児童・生徒の資質・能力の水準の程度を把握する方法を教科・特別活動・総合的な学習の時間をもとに考察する。さらに、学力評価法としてのポートフォリオ評価法について、そのルーブリックやモデレーションの方法についても習得できるように、豊富な事例研究をもとにした討議を通してその評価力の向上を図る。</p> <p>(22 永田智子／6回)</p> <p>主として学力評価の理論と方法・技術を担当する。学力評価の意義・目的・対象・内容・方法等に関して講義を行うことで理解させる。また、自己評価・他者評価・相互評価・観点別評価・総合評価について講義を行うとともに、具体的な事例の検討や討議を通して理解をさせる。さらに各教科における評価基準表等の作成に関して一通りの講義を行った後、評価基準表等の作成を通して、学力評価の方法について理解を深めさせる。</p> <p>(20 吉水裕也／5回)</p> <p>診断的評価・形成的評価・総括的評価について実践事例をもとにして実践的に検討すると共に、相対評価・絶対評価・個人内評価の評価方法について理解し、さらに通知表・指導要録の作成と総括的記載方法の具体について討議し、「指導と評価の一体化」のための実践的評価基準と学力評価方法を実践できる評価力の力量を高める。</p> |                        |
| <p>共通基礎科目</p> | <p>I 群</p> | <p>児童生徒の問題行動に関する事例研究A<br/>(Case Study on Problem Behaviors by Schoolchildren and Students A)</p> | <p>(概要)</p> <p>いじめ、不登校など従来型の問題行動に加え、児童虐待、ネット犯罪等複雑かつ深刻な様相を呈する児童生徒の問題行動の情勢をとらえ、その原因・背景を理解し、心の問題への対応、学校の危機管理、学校と家庭や地域社会、関係機関との連携システムづくりに関する生徒指導実践力の向上をめざす。</p> <p>問題に応じて、中学校生徒指導担当者、元児相相談員、元家裁調査官が授業を担当し、教師間の協働的生徒指導体制の構築、および家庭、地域や専門機関との連携の意義や方法について考察する。特に現職教員を対象にするAにおいては、受講者自身の実践例や具体的事例を持ち寄り、事例検討を中心とした参加型の授業を実施する。</p> <p>(共同方式／全15回)</p> <p>(25 新井肇／8回)</p> <p>授業全体を統括するとともに、児童生徒の問題行動、とりわけ反社会的問題行動の現状や背景、学校における生徒指導上の課題について受講者と意見交換しながら検討する。とくに、協働性の向上や校内体制の機能充実の側面を中心に、チーム援助の意義と方法についての理解を深める。チーム援助の具体的方法については、具体的事例を取りあげ、インシデント・プロセス法を通じて体験的に学習する。</p>   | <p>(現職教員学生対象) 共同方式</p> |

|        |     |  |   |                       |
|--------|-----|--|---|-----------------------|
|        |     |  | <p>(30 松本剛／8回)<br/> 児童生徒の問題行動，とりわけ非社会的問題行動の現状や背景，学校における生徒指導上の課題について受講者と意見交換しながら検討する。とくに，校内教育相談体制の機能充実の側面を中心に，個別的アプローチと集団的アプローチの意義と方法についての理解を深める。アプローチの方法については，具体的事例を取りあげ，ロールプレイングを通じて体験的に学習する。</p> <p>(兼任 中尾豊喜(夜間のみ)／2回)<br/> 小・中・高を通じて系統的生徒指導を実施するための連携のあり方を「子どもたちをどう渡し，どう受け取るか」という視点から検討する。高校中退等の具体的事例を取りあげ，小・中・高の生徒指導における学校間連携について，受講者と意見交換しながら検討を進める。</p> <p>(兼任 雲井弘幸(昼間)，兼任 大島剛(夜間)／3回)<br/> 児童相談所の役割，児童福祉法の問題点，学校との連携における課題等について理解を深める。また，児童相談所からみた子どもたちの今日的課題と社会的背景について，受講者と意見交換しながら検討する。<br/> 児童虐待等の具体的事例を取りあげ，児童相談所との連携や教師の役割について体験的に学習する。</p> <p>(兼任 橋本和明／3回)<br/> 家庭裁判所の役割，少年法の問題点，学校との連携における課題等に関する理解を深める。また，家庭裁判所からみた子どもたちの問題や社会的背景について，受講者と意見交換しながら検討する。<br/> 少年犯罪の具体的事例を取りあげ，教師の役割や家庭裁判所との連携について体験的に学習する。</p> <p>(担当教員全員／3回)<br/> 青少年健全育成・非行対策における地域資源の活用や専門機関との連携の意義と方法について検討する。<br/> 小グループに分かれて，サポートチームの形成と活動の進め方等に関する事例演習(シミュレーション)を行い，問題行動の解決を図る組織的対応についての実践的指導力の向上をめざす。</p> |                       |
| 共通基礎科目 | I 群 | 児童生徒の問題行動に関する事例研究B<br>(Case Study on Problem Behaviors by Schoolchildren and Students B) | (概要)<br>いじめ，不登校など従来型の問題行動に加え，児童虐待，ネット犯罪等複雑かつ深刻な様相を呈する児童生徒の問題行動の情勢をとらえ，その原因・背景を理解し，心の問題への対応，学校の危機管理，学校と家庭や地域社会，関係機関との連携システムづくりに関する生徒指導実践力の向上をめざす。<br>問題に応じて，元児童相談員，元家裁調査官が授業を担当し，教師間の協働的生徒指導体制の構築，および家庭，地域や専門機関との連携の意義や方法について考察する。特にストレート院生を対象にするBにおいては，学校において生じる代表的な問題事例や時事的な事例を取りあげ，事例検討や実地調査，ロールプレイング，シミュレーションを中心とした参加型の授業を実施する。 <p>(共同方式／全15回)</p> <p>(25 新井肇／8回)<br/> 授業を統括するとともに，児童生徒の問題行動，とりわけ反社会的問題行動の現状や背景，学校における生徒指導上の課題について受講者と意見交換しながら検討する。とくに，協働性の向上や校内体制の機能充実の側面を中心に，チーム援助の意義と方法についての理解を深める。チーム</p>  | (現職教員以外の学生対象)<br>共同方式 |

|                |        |   |  |                    |
|----------------|--------|---|--|--------------------|
|                |        |   | <p>援助の具体的方法については、具体的事例を取りあげ、インシデント・プロセス法を通じて体験的に学習する。</p> <p>また、小・中・高を通じて系統的生徒指導を実施するための連携のあり方を「子どもたちをどう渡し、どう受け取るか」という視点から、受講者と意見交換しながら検討を進める。</p> <p>(30 松本剛／8回)</p> <p>児童生徒の問題行動、とりわけ非社会的問題行動の現状や背景、学校における生徒指導上の課題について受講者と意見交換しながら検討する。とくに、校内教育相談体制の機能充実の側面を中心に、個別のアプローチと集団的アプローチの意義と方法についての理解を深める。</p> <p>アプローチの方法については、具体的事例を取りあげ、ロールプレイングを通じて体験的に学習する。</p> <p>(兼任 雲井弘幸／3回)</p> <p>児童相談所の役割、児童福祉法の問題点、学校との連携における課題等について理解を深める。また、児童相談所からみた子どもたちの今日的課題と社会的背景について、受講者と意見交換しながら検討する。</p> <p>児童虐待等の具体的事例を取りあげ、児童相談所との連携や教師の役割について体験的に学習する。</p> <p>(兼任 橋本和明／3回)</p> <p>家庭裁判所の役割、少年法の問題点、学校との連携における課題等に関する理解を深める。また、家庭裁判所からみた子どもたちの問題や社会的背景について、受講者と意見交換しながら検討する。</p> <p>少年犯罪の具体的事例を取りあげ、教師の役割や家庭裁判所との連携について体験的に学習する。</p> <p>(担当教員全員／3回)</p> <p>青少年健全育成・非行対策における地域資源の活用や専門機関との連携の意義と方法について検討する。</p> <p>小グループに分かれて、サポートチームの形成と活動の進め方等に関する事例演習（シミュレーション）を行い、問題行動の解決を図る組織的対応についての実践的指導力の向上をめざす。</p> |                    |
| 共通<br>基礎<br>科目 | I<br>群 | <p>学校における心の教育の実践研究A<br/>(Practical Study on Education for Mind in School A)</p> | <p>(概要)</p> <p>学校における「心の教育」の実践的諸課題に道徳教育、進路指導及び教育相談の3分野からアプローチし、各々の基礎的な諸課題を明らかにすると共に、「心の教育」がそれらを総合した課題であることを理解する。全体は渡邊が統括する。</p> <p>(共同方式／全15回)</p> <p>【道徳教育分野の授業の概要】</p> <p>学校における道徳教育が、「学校の教育活動全体によって行われなければならない」という基本原則を適切に理解し、その上で道徳的実践力の育成に目標を置く「道徳の時間」における道徳教育の課題と具体的な授業実践について各自の実践事例をとおして検討する。教員3名の協働によって行う。</p> <p>(24 渡邊満／7回)</p> <p>授業全体及びこの分野の授業を統括するとともに、学校における道徳教育の現状と課題及び「話し合い活動」の意義について学校において実践している具体的な資料や授業事例によりながら検討する。</p>  | (現職教員学生対象)<br>共同方式 |

|        |     |  |                       |
|--------|-----|--|-----------------------|
|        |     | <p>(32 淀澤勝治／7回)<br/>         具体的な授業事例を示しながら、「話し合い活動」の実践の在り方について、ロールプレイも活用しながら分かりやすく説明する。</p> <p>(29 小寺正一／7回)<br/>         学校における道徳教育、特に道徳の時間の指導の在り方について学習指導要領の基本的な考え方と学校現場の課題を中心にして検討する。</p> <p>【進路指導分野の授業の概要】<br/>         進路指導・キャリア教育の目的・内容・方法、キャリア教育に関する国内外の実践と理論、そして児童・生徒・保護者への進路相談の実際について学ぶ。その際、講義に偏らないよう討論等を活用して、この分野への理解が深まるよう配慮する。なお、現職教員は現任校における実践や取組を事例として提供し実践的な学習を図る。</p> <p>(26 古川雅文／7回)<br/>         この分野の授業を統括するとともに、我が国における進路指導（キャリア教育）の現状と課題について、目的・内容・方法の観点から明らかにし、学校における実践事例を通して理解の深まりを配慮する。院生は現任校の実践や取組を提示し、その課題について検討できるようにする。</p> <p>(① ヤギ ダリル タキゾウ／8回)<br/>         主としてアメリカにおけるキャリア教育の歴史や現状について、実践事例を詳細に示しながらわかりやすく解説し、その上で我が国との比較検討を行い、学生による討論を重視しながら実践的理解の深まりを図る。</p> <p>【教育相談分野授業の概要】<br/>         教育相談の必要性和学校教育におけるその位置づけを整理しつつ、個別面談・集団への教育活動に適用しうる教育相談に関する基礎的技量の向上をめざす。そのために体験学習、事例検討、相互検討を重視した授業展開を行う。教育相談に関連するカウンセリング理論の基礎を体験的に学習したうえで、その実際を事例の検討を通して学び、学生が相互に話し合いながら学校教育における教育相談の必要性和そのありかたを検討する。</p> <p>(34 隈元みちる／8回)<br/>         この分野の授業を統括するとともに、主に教育相談の必要性和学校教育におけるその位置づけを整理する講義と実習、カウンセリングの基礎的技量の向上をめざすための演習を担当する。</p> <p>(兼任 住本克彦／1回)<br/>         教育相談を集団への教育活動に適用しうる基礎的技量の育成のための構成的グループ・エンカウンター実習を担当する。</p> |                       |
| 共通基礎科目 | I 群 | <p>学校における心の教育の実践研究B<br/>         (Practical Study on Education for Mind in School B)</p> <p>(概要)<br/>         学校における「心の教育」の実践的諸課題に道徳教育、進路指導及び教育相談の3分野からアプローチし、各々の基礎的な諸課題を明らかにすると共に、「心の教育」がそれらを総合した課題であることを理解する。全体は渡邊が統括する</p> <p>(共同方式／全15回)</p> <p>【道徳教育分野の授業の概要】<br/>         学校における道徳教育が、「学校の教育活動全体によっ</p>  | (現職教員以外の学生対象)<br>共同方式 |



て行われなければならない」という基本原則を適切に理解し、その上で道徳的実践力の育成に目標を置く「道徳の時間」における道徳教育の課題と具体的な授業実践について具体的な実践事例を示しながら検討する。教員3名の協働によって行う。

(24 渡邊満／7回)

授業全体及びこの分野の授業を統括するとともに、学校における道徳教育の現状と課題及び「話し合い活動」の意義について具体的な資料や授業事例によりながら検討する。その際、討論を重視しながら、学生が自己の道徳教育についての考え方を見直すことができるよう配慮する。

(32 淀澤勝治／7回)

具体的な授業事例を示しながら、「話し合い活動」の実践の在り方について、模擬授業やロールプレイも活用しながら分かりやすく説明する。

(29 小寺正一／7回)

学校における道徳教育、特に道徳の時間の指導の在り方について、実践事例を参照しながら学習指導要領の基本的な考え方と学校における実際を中心に検討する。

#### 【進路指導分野の授業の概要】

進路指導・キャリア教育の目的・内容・方法、キャリア教育に関する国内外の実践と理論、そして児童・生徒・保護者への進路相談の実際について学ぶ。その際講義に偏らないよう討論等を活用して、この分野への理解が深まるよう配慮する。

(26 古川雅文／7回)

我が国における進路指導・キャリア教育の現状と課題について、目的・内容・方法の観点から明らかにし、我が国と諸外国の学校におけるこの分野の考え方やそれに基づく実践事例の検討を通して学生の理解の深まりを図る。

(① ヤギ ダリル タキゾウ／8回)

主としてアメリカにおけるキャリア教育の歴史や現状について、実践事例を具体的な資料やロールプレイなど学生による諸活動を通して詳細に示しながら解説し、その上で学生による討論を重視しながら我が国の進路指導・キャリア教育の課題について理解の深まりを図る。

#### 【教育相談分野授業の概要】

教育相談の必要性和学校教育におけるその位置づけを整理しつつ、個別面談・集団への教育活動に適用しうる教育相談に関する基礎的技量の向上をめざす。そのために体験学習、事例検討、相互検討を重視した授業展開を行う。教育相談に関連するカウンセリング理論の基礎を体験的に学習したうえで、その実際を事例の検討を通して学び、学生が相互に話し合いながら学校教育における教育相談の必要性和そのありかたを検討する。

(34 隈元みちる／8回)

この分野の授業を統括するとともに、主に教育相談の必要性和学校教育におけるその位置づけを整理する講義と実習、カウンセリングの基礎的技量の向上をめざすための演習を担当する。

(兼任 住本克彦／1回)

教育相談を集団への教育活動に適用しうる基礎的技量の育成のための構成的グループ・エンカウンター実習を担当する。

|        |     |   |  |   |
|--------|-----|---|--|---|
| 共通基礎科目 | I 群 | 教員のための学校組織マネジメントの実践演習A<br>(Organizational Management for Schools A) | <p>(概要)</p> <p>本授業では、学校経営の基礎と改革を押さえた上で、学校組織の一員である教職員に必要な、学校組織マネジメントと学校評価の理論と実践方法の基本について講義するとともに、演習において学生の現任校を題材に組織マネジメントと自己評価の基本的なトレーニングを行い、組織マネジメントと自己評価の実践力を養う。</p> <p>本授業は次の内容で構成される。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校経営・教育行政の理念と制度 (講義)</li> <li>2. 学校経営改革 (講義)</li> <li>3. 学校経営改革と組織マネジメント・学校自己評価の必要性 (講義)</li> <li>4. 学校組織マネジメントの実践トレーニング (演習)</li> <li>5. 学校評価システム構築のための実践トレーニング (演習)</li> </ol> <p>(共同方式/全15回)</p> <p>(2 加治佐哲也/15回)</p> <p>本授業の担当として、1. 学校経営・教育行政の理念と制度 (講義)と2. 学校経営改革 (講義)を主に担当し、4. 学校組織マネジメントの実践トレーニング (演習)と5. 学校評価システム構築のための実践トレーニング (演習)では演習の助言者として加わる。</p> <p>(4 浅野良一/8回)</p> <p>3. 学校経営改革と組織マネジメント・学校自己評価の必要性 (講義)、4. 学校組織マネジメントの実践トレーニング (演習)、5. 学校評価システム構築のための実践トレーニング (演習)において主たる役割を努める。</p> <p>(1 廣岡徹/10回)</p> <p>1. 学校経営・教育行政の理念と制度 (講義)と2. 学校経営改革 (講義)において制度や改革の実情や、成果、課題を実務経験者の立場から講義する。4. 学校組織マネジメントの実践トレーニング (演習)と5. 学校評価システム構築のための実践トレーニング (演習)では演習の助言者として加わる。</p> | (現職教員学生対象)<br>共同方式<br>(現職の校長等をゲストスピーカーとして招く。) |
| 共通基礎科目 | I 群 | 教員のための学校組織マネジメントの実践演習B<br>(Organizational Management for Schools B) | <p>(概要)</p> <p>学校の組織マネジメントの基礎を学ぶとともに、事例演習を行うことにより、実際に学校における組織マネジメントを実践し、学校の改善に貢献できる力量を身につけることを目標とする。学校の法的責任、学校管理、学校経営、学校経営改革に関する基本事項を概説するとともに、学校経営の実態を事例に即して講義する。その上で、学校経営において直面する諸問題を取り上げ、事例演習を行うとともに、学校経営プランを作成し、実践力の育成を目指す。</p> <p>(共同方式/全15回)</p> <p>(1 廣岡徹/2回)</p> <p>この授業の担当として学校経営の実態に関して、教職経験のない受講生が、問題の本質を実態に即して理解できるように講義を行う。</p> <p>(7 竺沙知章/2回)</p> <p>学校の法的責任、学校管理の法制度に関する基本事項を概説する。</p> <p>(8 武井敦史/2回)</p> <p>学校経営の基本事項、とりわけ学校における組織マネジ</p>   | (現職教員以外の学生対象)<br>共同方式                         |

|        |     |   |   |                       |
|--------|-----|---|---|-----------------------|
|        |     |   | <p>メントに関する基本事項を概説する。</p> <p>(9 大野裕己／2回)<br/>特色ある学校づくり、開かれた学校づくりをテーマにして、自律的な学校経営改革について概説する。</p> <p>(1 廣岡徹, 7 竺沙知章, 8 武井敦史, 9 大野裕己／共同方式：7回)<br/>学校組織マネジメントに関する事例演習の企画と指導、学校経営プラン作成の指導を行う。</p>   |                       |
| 共通基礎科目 | I 群 | <p>児童生徒を活かす学級経営の実践演習A<br/>(Practice of Classroom Management for Children A)</p> | <p>(概要)<br/>学級経営を遂行する際に留意しておくべき事柄および望ましい学級経営を行うために有用だと考えられる種々の実践などに関する知見や考えを授業者が提示したり、各受講者がこれまでに考えてきたことや行ってきた実践を開示・提示しあったりしたうえで、それらの考え・実践の妥当性や意義、問題点などについて討論する。そして、以上のことを通して、より有用かつ適用可能な洗練された実践を受講者とともに構築していく。</p> <p>(共同方式／全15回)</p> <p>(27 吉田寿夫／15回)<br/>この授業全体を統括するとともに、いじめ、学級崩壊などの学級内の諸問題に対して予防ないし介入するための代表的な実践について解説するとともに、そうした問題事象を克服した実践事例を紹介する。そして、それらの実践の妥当性や問題点などについて討論する。また、児童生徒の性格、能力、感情などについてクリティカルに推論したり、児童生徒の人間関係を的確・柔軟に把握したりする際に必要となるであろう事柄に関する考えを提示し、その有用性や適用可能性について討論する。第7回～第13回の7回の授業において主担となる。</p> <p>(39 吉川芳則／15回)<br/>現職教員としての経験に基づいて、「学級経営案の作成」「学級経営を行う際に目標とする学級の状態に関する考え」「学級経営の評価」「学級経営と学年・学校経営の関連のあり方」「学級における種々の規範づくり」の諸点に関する自身の考え・実践を提示するとともに、それらについての各受講者の考え・実践の開示を求める。そして、そのうえで、提示・開示された考え・実践に関する問題点や有効性などについて討論する。第1回～第6回の6回の授業において主担となる。</p> <p>(33 山中一英／15回)<br/>賞賛・叱責を効果的かつ弊害の少ないものにするために必要となるであろう事柄に関する考えを提示する。さらに、各受講者に賞賛・叱責に関わる経験の開示を求めたり、実際の賞賛・叱責場面をビデオなどで提示したりした後で、それぞれの事例における教師の行動の妥当性や改善点、配慮すべき点などについて討論する。第14回と第15回の2回の授業において主担となる。</p> | (現職教員学生対象)<br>共同方式    |
| 共通基礎科目 | I 群 | <p>児童生徒を活かす学級経営の実践演習B<br/>(Practice of Classroom Management for Children B)</p> | <p>(概要)<br/>学級経営を遂行する際に留意しておくべき事柄および望ましい学級経営を行うために有用だと考えられる種々の実践などに関する知見や考えを授業者が提示し、それらの考え・実践の妥当性や意義、問題点などについて討論する。また、最後の2回では、それまでの授業で学んだことの定着・深化を促すために行った現職教員を対象にしたインタビュー調査の結果と、それに基づいて構築した望ましい学</p>   | (現職教員以外の学生対象)<br>共同方式 |

|                         |                |  |                               |
|-------------------------|----------------|--|-------------------------------|
|                         |                | <p>級経営を行うための実践のあり方に関する各自の考えを発表しあい、討論する。</p> <p>(共同方式／全15回)</p> <p>(27 吉田寿夫／15回)<br/>この授業全体を統括し、児童生徒の性格、能力、感情などについてクリティカルに推論したり、児童生徒の人間関係を的確・柔軟に把握したりする際に必要となるであろう事柄に関する考えを提示し、その有用性や適用可能性について討論する。また、総括として、それまでの授業で学んだことの定着・深化を促すために、各受講者に、現職教員に対するインタビュー調査を行うよう求め、それによって明らかになったことやそれに基づき構築した考えなどについて討論する。第9回～第11回、第14回、第15回の5回の授業において主担となる。</p> <p>(39 吉川芳則／15回)<br/>現職教員としての経験に基づいて、「学級経営案の作成」「学級経営を行う際に目標とする学級の状態に関する考え」「学級経営の評価」「学級経営と学年・学校経営の関連のあり方」「学級における種々の規範づくり」の諸点に関する自身の考え・実践を提示し、それらの考え・実践に関する問題点や有効性などについて討論する。第1回～第5回の5回の授業において主担となる。</p> <p>(33 山中一英／15回)<br/>いじめ、学級崩壊などの学級内の諸問題に対して予防ないし介入するための代表的な実践について解説するとともに、そうした問題事象を克服した実践事例を紹介する。そして、それらの実践の妥当性や問題点などについて討論する。また、賞賛・叱責を効果的かつ弊害の少ないものにするために必要となるであろう事柄に関する考えを提示する。さらに、各受講者に賞賛・叱責に関わる経験の開示を求めたり、実際の賞賛・叱責場面をビデオなどで提示したりした後で、それぞれの事例における教師の行動の妥当性や改善点、配慮すべき点などについて討論する。第6回～第8回、第12回、第13回の5回の授業において主担となる。</p> |                               |
| <p>共通<br/>基礎<br/>科目</p> | <p>I<br/>群</p> | <p>教員の社会的役割と自己啓発A<br/>(Social Role of Teachers and Self-Development A)</p> <p>(概要)<br/>共通科目の「学校教育と教員のあり方」に関する領域の科目として設定している。内容的には、①現代社会における学校教育の役割と現代的課題の解決策、②教員の社会的・職業的倫理に関する事例研究、③教員のコミュニケーション技法、等が大きな柱となる。これらを通して、現職教員である受講生のこれまでの教員としての教育実践体験を検証し、その意味を再吟味し、新たな教育実践への認識を深め、同僚や児童生徒、さらに保護者とのコミュニケーションの技量を高め、とかく精神的負担感の増加の原因となる問題の原因を軽減する。併せて、受講生自身がよりよき教員となるための自己啓発の具体的なあり方を形成する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(兼担 安部崇慶／8回)<br/>この授業全体を統括するとともに、主として上記の①と③を担当し、現代社会における学校の教員の諸課題、例えば反省的実践への志向や教員の同僚性について講義・演習(ワークショップを含む)を通じて解決策を探る。また、他者とのコミュニケーション、とりわけ同僚教員、児童生徒、そして保護者などとのコミュニケーションの適切な取り方を指導する。授業は、講義だけでなく、現職教員の経験を生かしたディスカッション方式を採用する。</p>   | <p>(現職教員学生対象)<br/>オムニバス方式</p> |

|        |     |   |  |                                     |
|--------|-----|---|--|-------------------------------------|
|        |     |   | <p>( 6 渡邊規矩郎／7回)</p> <p>主として②を担当し、長年ジャーナリストとして学校教育や学校を取り巻く地域や家庭に関する諸問題について蓄積してきた経験や知識を生かし、地域と学校とのかかわりや社会のなかでの教員の役割や課題を明らかにし、教員に今日求められている資質・能力の発展に取り組む。</p>   |                                     |
| 共通基礎科目 | I 群 | <p>教員の社会的役割と自己啓発B<br/>(Social Role of Teachers and Self-Development B)</p>                  | <p>(概要)</p> <p>共通科目の「学校教育と教員のあり方」に関する領域の科目として設定している。内容的には、①現代社会における学校教育の役割と現代的課題の解決策、②教員の社会的・職業的倫理に関する事例研究、③教員のコミュニケーション技法、等が大きな柱となる。これらを通して、現職教員である受講生のこれまでの教員としての教育実践体験を検証し、その意味を再吟味し、新たな教育実践への認識を深め、同僚や児童生徒、さらに保護者とのコミュニケーションの技量を高め、とかく精神的負担感の増加の原因となる問題の原因を軽減する。併せて、受講生自身がよりよき教員となるための自己啓発の具体的なあり方を形成する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(兼担 安部崇慶／9回)</p> <p>この授業全体を統括するとともに、主として上記の①と③を担当し、現代社会における学校の教員の諸課題及びこれらの諸課題のなかで教員としてのあり方に関わる他者とのコミュニケーション、とりわけ同僚教員、児童生徒、そして保護者などとのコミュニケーションの適切な取り方を指導し、受講者が将来教師となったとき確実に教員としての自己のあり方を省察する力を身に付けることができるよう取組を進める。授業は、若い受講者を配慮しながら、講義だけでなく演習（ワークショップを含む）という形態も課題に応じて取りながら行う。</p> <p>( 6 渡邊規矩郎／6回)</p> <p>主として②を担当し、長年ジャーナリストとして学校教育や学校を取り巻く地域や家庭に関する諸問題について蓄積してきた経験や知識を生かし、地域と学校とのかかわりや社会のなかでの教員の役割や課題を明らかにし、教員に今日求められている資質・能力の発展に取り組む。</p> | <p>(現職教員以外の学生対象)</p> <p>オムニバス方式</p> |
| 共通基礎科目 | I 群 | <p>教員のための人権教育の理論と方法A<br/>(Theory and Practice in Human Rights Education for Teachers A)</p> | <p>(概要)</p> <p>この授業では、学校教育のなかで「人権としての教育」、「人権についての教育」、「人権を通じた教育」、「人権のための教育」といったさまざまな側面を考慮しながら取り組まれている同和教育をはじめとする人権教育について、就学前教育・小学校・中学校および高等学校における最近の実践事例の検討を通してその意義と実践的課題を明らかにする。その際、現職教員においては、単に理念的な議論にとどまることなく、「部落差別の問題」、「子どもの問題」、「女性問題」、「障害者の問題」、「高齢者の問題」など、さまざまな具体的な諸課題へアプローチしながら、人権教育の実践的な授業開発をめざす。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(31 安原一樹／8回)</p> <p>この授業全体を統括するとともに、主として現代社会における人権教育の現状と課題、同和教育の基礎論、そして学校の授業において同和人権教育を進めていく実践的な側面に焦点を置いて授業を行う。</p> <p>(兼担 藤井徳行／7回)</p>   | <p>(現職教員学生対象)</p> <p>オムニバス方式</p>    |

|        |      |   |   |                                     |
|--------|------|---|---|-------------------------------------|
|        |      |   | 主として現代社会における人権教育の現状と課題，人権教育の基礎論，そして部落差別及び同和教育の歴史的展開に焦点を置いて授業を行う。  |                                     |
| 共通基礎科目 | I 群  | <p>教員のための人権教育の理論と方法 B</p> <p>(Theory and Practice in Human Rights Education for Teachers B)</p> | <p>(概要)</p> <p>この授業では、学校教育のなかで「人権としての教育」、「人権についての教育」、「人権を通じた教育」、「人権のための教育」といったさまざまな側面を考慮しながら取り組まれている人権教育について、就学前教育・小学校・中学校および高等学校における最近の実践事例の検討を通してその意義と実践的課題を明らかにする。その際、現職教員以外の者においては、同和教育やその他の人権教育の基礎的な理解の獲得が図られるよう配慮しながら、また、実践事例研究を通して学校において人権教育を担っていくために必要な実践的力量を育成する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(31 安原一樹／8回)</p> <p>この授業全体を統括するとともに、主として現代社会における人権教育の現状と課題，同和教育の基礎論，そして学校の授業において同和人権教育を進めていく実践的な側面に焦点を置いて授業を行う。</p> <p>(兼担 藤井徳行／7回)</p> <p>主として現代社会における人権教育の現状と課題，人権教育の基礎論，そして部落差別および同和教育の歴史的展開に焦点を置いて授業を行う。</p>  | <p>(現職教員以外の学生対象)</p> <p>オムニバス方式</p> |
| 共通基礎科目 | II 群 | <p>人間的成長を促す教育の理論と実践 A</p> <p>(Theory and Practice in Education for Human Development A)</p>     | <p>(概要)</p> <p>本授業では、人間とは何か、いかにしてヒトは人間にまで形成されるのかという問いを出発点にしながら、それぞれの時代社会においてそれぞれ固有の人間観と教育が存在してきたことを理解したうえで、現代社会において構想しうる、人間的な成長・発達のための教育の場づくりについて、学際的ならびに実践的観点から考察することを主たる目標とする。授業形態については、前半の8回は講義形式、後半の7回は小グループに分かれて演習形式で授業を進める。</p> <p>(共同方式／全15回)</p> <p>(兼任 島崎保／3回)</p> <p>前半の講義のうち3回を担当する。講義ではまず、人間とは何かという問いに対する数多くの定義を検討することを通して、人間を見る視点の精査を目指す。次に、比較行動学的な知見を用いて「人間らしさ」と個性を育てることの意味について考察する。最後に、「人間らしさ」と教育との関わりについて構造的な見取り図を示す。</p> <p>(兼担 渡邊隆信／10回)</p> <p>この授業全体を統括するとともに、前半の講義のうち3回を担当する。講義ではまず、啓蒙主義における人間観と教育についてその特徴と問題点について論じる。次に、啓蒙主義の問題点を乗り越えるかたちで生まれたロマン主義において、いかなる人間観と教育とが構想されたのかを考察する。後半の演習には原則として毎回他の教員と共同で参加し、小グループを分担して指導する。</p> <p>(兼担 大関達也／9回)</p> <p>前半の講義のうち2回を担当する。講義ではまず、近代産業社会の成立に伴って国家に有用な「国民」という人間</p> | <p>(現職教員学生対象)</p> <p>共同方式</p>       |

|        |      |  |  |  |
|--------|------|--|--|--|
|        |      |  | <p>観が生まれ、それに対応した学校教育制度が確立していく過程について論じる。次に、ポスト・モダンと呼ばれる時代思潮をふまえて、近代の人間観や教育を批判的に検討する。後半の演習には原則として毎回他の教員と共同で参加し、小グループを分担して指導する。</p>   |  |
| 共通基礎科目 | II 群 | <p>人間的成長を促す教育の理論と実践 B<br/>(Theory and Practice in Education for Human Development B)</p>                       | <p>(概要)<br/>本授業では、人間らしさや人間性とは何か、それは教育といかに関係するのか、また関係してきたのかについて、心理学的・歴史的・哲学的な観点から学際的に理解したうえで、第二次世界大戦以降の教育目標に関する法律や答申等のなかに現れる人間観と教育のあり方を検討することを通して、21世紀の教育においていかなる人間がいかにして育成されるべきかについて考察することを主たる目標とする。授業形態については、前半の10回は講義形式、後半の5回は小グループに分かれて演習形式で授業を進める。<br/>(共同方式/全15回)<br/><br/>(兼任 島崎保/3回)<br/>前半の講義のうち3回を担当する。講義ではまず、人間とは何かという問いに対する数多くの定義を検討することを通して、人間を見る視点の精査を目指す。次に、比較行動学的な知見を用いて「人間らしさ」と個性を育てることの意味について考察する。最後に、「人間らしさ」と教育との関わりについて構造的な見取り図を示す。<br/><br/>(兼担 渡邊隆信/9回)<br/>この授業全般を統括するとともに、前半の講義のうち4回を担当する。講義の主たる内容は、近代における人間観と教育である。講義ではまず、啓蒙主義における人間観と教育についてその特徴と問題点について論じる。次に、啓蒙主義の問題点を乗り越えるかたちで生まれたロマン主義において、いかなる人間観と教育とが構想されたのかを考察する。最後に、19世紀末から20世紀初頭に展開された新教育運動において、人間諸科学の影響のなかで生まれた多様な人間観と教育について検討する。後半の演習には原則として毎回他の教員と共同で参加し、小グループを分担して指導する。<br/><br/>(兼担 大関達也/8回)<br/>前半の講義のうち3回を担当する。講義の主たる内容は、ポスト・モダンにおける人間観と教育である。講義ではまず、啓蒙や発達を前提とする近代ヨーロッパの人間観と教育が内包する諸問題について論じる。次に、従来の西洋・ロゴス中心主義によって周辺に追いやられた様々な「他者」の立場から人間性と教育のあり方を捉え直す。最後に、高度情報・消費社会、価値多様化に象徴されるポスト・モダン状況における大人と子どもの関わり方について考察する。後半の演習には原則として毎回他の教員と共同で参加し、小グループを分担して指導する。</p> | <p>(現職教員以外の学生対象)<br/>共同方式</p>                  |
| 共通基礎科目 | II 群 | <p>学校における特別支援教育への対応と方法 A<br/>(Special Support Education in School : Needs, Methods, and Support Systems A)</p> | <p>(概要)<br/>小・中学校等で学ぶLD・ADHD・高機能自閉症等を含む様々な障害のある児童生徒に対する特別支援教育についてその全般的な概要を述べる。特に、障害理解やアセスメントの進め方、特別なニーズに応じた指導内容や方法、校内支援体制の構築、専門機関との連携、保護者との連携、学校経営の進め方、教育政策・教育行政の最新の動向などについて具体的に述べる。テーマによっては、演習とする。なお、本授業では、現職経験を踏まえて、全授業を通して、学校現場で直接生きる高度な考え・知識・技能の獲得を目指す。</p>  | <p>(現職教員学生対象)<br/>オムニバス方式(昼間)<br/>※夜間は単独開講</p> |

|        |      |   |   |                                  |
|--------|------|---|---|----------------------------------|
|        |      |   | <p>(オムニバス方式〔昼間〕／全15回)</p> <p>(兼担 柘植雅義／8回)<br/>この授業全体を統括するとともに、特別支援教育における理念、および教育政策・教育行政の最新の動向に基づいた具体的な支援の在り方について述べる。その際に、学校経営、地域連携、保護者との連携といった視点を重視して展開する。主に、「特別支援教育の理念」「校内支援体制の構築」「専門機関との連携の在り方(個人情報保護に基づいた連携の在り方)」「特別支援教育を視野に入れた学校経営と評価(学校経営および学校評価の実際)」「諸外国の学校における事例」について述べる。</p> <p>(兼担 井澤信三／7回)<br/>特別支援教育におけるPlan-Do-Seeに基づいた具体的な指導内容や方法について担当する。すなわち、LD, ADHD, 高機能自閉症等に関する障害特性の理解を深め、アセスメントに基づいた支援について、実践的な観点から述べる。主に、「障害の理解とアセスメントの進め方」「特別なニーズに応じた指導内容・方法」「特別支援教育コーディネーターの支援の実際」「専門機関との連携の在り方(巡回相談や専門家チームとの連携の在り方)」「保護者との連携の進め方」について述べる。</p> <p>(兼任 小田浩伸／15回〔夜間〕)<br/>全体を担当する。</p>  |                                  |
| 共通基礎科目 | II 群 | <p>学校における特別支援教育への対応と方法B<br/>(Special Support Education in School : Needs, Methods, and Support Systems B)</p> | <p>(概要)<br/>小・中学校等で学ぶLD・ADHD・高機能自閉症等を含む様々な障害のある児童生徒に対する特別支援教育についてその全般的な概要を述べる。特に、障害理解やアセスメントの進め方、特別なニーズに応じた指導内容や方法、校内支援体制の構築、専門機関との連携、保護者との連携、学校経営の進め方、教育政策・教育行政の最新の動向などについて具体的に述べる。テーマによっては、演習とする。なお、本授業では、現職経験のない者が受講することから、全授業を通して、実際の学校場面を例に取り、学校現場で直接生きる高度な考え・知識・技能の獲得を目指す。</p> <p>(オムニバス方式〔昼間〕 全15回)</p> <p>(兼担 柘植雅義／8回)<br/>この授業全体を統括するとともに、特別支援教育における理念、および教育政策・教育行政の最新の動向に基づいた具体的な支援の在り方について述べる。その際に、学校経営、地域連携、保護者との連携といった視点を重視して展開する。主に、「特別支援教育の理念」「校内支援体制の構築」「専門機関との連携の在り方(個人情報保護に基づいた連携の在り方)」「特別支援教育を視野に入れた学校経営と評価(学校経営および学校評価の実際)」「諸外国の学校における事例」について述べる。</p> <p>(兼担 井澤信三／7回)<br/>特別支援教育におけるPlan-Do-Seeに基づいた具体的な指導内容や方法について担当する。すなわち、LD, ADHD, 高機能自閉症等に関する障害特性の理解を深め、アセスメントに基づいた支援について、実践的な観点から述べる。主に、「障害の理解とアセスメントの進め方」「特別なニーズに応じた指導内容・方法」「特別支援教育コーディネーターの支援の実際」「専門機関との連携の在り方(巡回相談や専門家チームとの連携の在り方)」「保護者との連携の進め方」について述べる。</p> | <p>(現職教員以外の学生対象)<br/>オムニバス方式</p> |



|        |    |  |   |         |
|--------|----|--|---|---------|
| 共通基礎科目 | Ⅱ群 | 教員のための情報処理演習（基礎）<br>(Sminar in Educational Computing (Basic))    | <p>(概要)<br/>         教員の職務(学習指導及び校務処理等)の遂行に必要な情報処理の基礎的な技術について、講義及び演習を行う。具体的には、①ワードプロセッサを用いた文書のレイアウト、②発表会等の指導に向けたプレゼンテーションソフトの活用、③デジタル画像のレタッチや編集、④表計算ソフトを用いた成績処理の方法等のスキルと共に、⑤情報メディアを活用した学習指導の事例や情報モラル、⑥セキュリティ対策などについて基礎的な事項を習得する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(21 森山潤／7回)<br/>         この授業全体を統括するとともに、主として前半に、上記の⑤、①、②を担当する。具体的には、インターネットを用いて教育の情報化の実態を把握すると共に、ワードプロセッサによる校務文書や学級通信の作成、教科指導におけるプロジェクト教材の作成、総合的な学習の時間等において生徒にプレゼンテーションソフトウェアを活用させる指導方法等を演習を中心に進める。</p> <p>(兼担 長瀬久明／8回)<br/>         主として後半に、上記の③、④、⑥を担当する。具体的には、学校行事を記録したデジタルカメラの画像のレタッチや編集、表計算ソフトウェアを活用した成績処理の実際、校内サーバーを使用する際のセキュリティ対策等について、演習を中心に進める。</p> | オムニバス方式 |
| 共通基礎科目 | Ⅱ群 | 教員のための情報処理演習（応用）<br>(Sminar in Educational Computing (Advanced)) | <p>(概要)<br/>         学校におけるメディアコーディネータとしての職務遂行に必要な情報処理の応用的な技術について、講義及び演習を行う。具体的には、①ノンリニア動画編集やWeb作成、②表計算ソフトにおけるマクロ・VBAの技術を習得すると共に、③情報メディアを活用した学習指導の事例や情報モラル、④セキュリティ対策などについて必要な事項を習得する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(兼担 長瀬久明／7回)<br/>         主として前半に、上記の③を担当する。具体的には、インターネット上に公開されている小中学校のWebページを閲覧し、学校からの情報公開のあり方について検討した後、各教科や総合的な学習の時間での高度なICT活用例を検討する。また、学校における情報モラルの問題について、生徒への指導方法を含めて、検討する。</p> <p>(21 森山潤／8回)<br/>         この授業全体を統括するとともに、主として後半に、上記の①、②、④を担当する。具体的には、学校行事を記録した動画のノンリニア編集やDVD作成、表計算ソフトを用いた成績処理ツールのテンプレートをマクロ・VBAを用いて作成する技法等について演習を中心に進める。また、校内ネットワークの管理者として情報セキュリティを確保する方策等について検討する。</p>           | オムニバス方式 |

| 授 業 科 目 の 概 要<br>(学校教育研究科教育実践高度化専攻) |  |  |   |
|-------------------------------------|--|--|---|
| 科目<br>区分                            | 授業科目の名称  | 講義等の内容   | 備考  |
| 学校<br>経営<br>コー<br>ス                 | 専<br>門<br>科<br>目<br><br>教育行財政の制度<br>と運用<br>(Educational<br>Administration<br>and Finance)  | <p>(概要)</p> <p>本授業は教育行政と教育財政の原理と仕組みを講義するとともに、それらの運用の現実をその担当者の事例解説と学生による事例分析によって明らかにすることにより、教育行財政制度への理解を深めるとともに、教育行政職としてのその遂行能力を養い、また学校管理職としてのそれへの対応能力を高める。</p> <p>本授業は次の内容で構成される。</p> <p>第1部 教育行政</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育行政の制度 (講義)</li> <li>2. 教育行政の実際 (講義・演習)</li> <li>3. 教育行政の評価 (講義)</li> </ol> <p>第2部 教育財政</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育財政の原理と制度 (講義)</li> <li>2. 地方教育財政の実態と課題 (演習)</li> <li>3. 学校財務の運用と課題 (講義・演習)</li> </ol> <p>(共同方式/全15回)</p> <p>(2 加治佐哲也/15回)</p> <p>本授業の担担者として、第1部教育行政を担当し、中心的に教育行政の制度と実際を講義するとともに、演習を計画し、実施する。</p> <p>(7 竺沙知章/4回)</p> <p>第2部教育財政を担当し、中心的に教育財政の制度と実際を講義するとともに、演習を計画し、実施する。</p> | 共同方式  |
| 学校<br>経営<br>コー<br>ス                 | 専<br>門<br>科<br>目<br><br>教育施策の立案と<br>評価<br>(Educational<br>Policy Making<br>and Evaluation) | <p>(概要)</p> <p>本授業では、教育施策のプロセス、つまり教育施策の立案、実施、結果に関する理論と事例を提供し、特色ある施策の内容分析や、施策の立案と評価のトレーニングによって、教育行政専門職には施策の立案と評価の、学校管理職には施策対応・活用の実践力を育成する。</p> <p>本授業は次の内容で構成される。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育施策の概念と特性 (講義)</li> <li>2. 教育施策の目標・内容 (講義・演習)</li> <li>3. 教育施策の形成過程 (講義)</li> <li>4. 教育施策の実施過程 (演習)</li> <li>5. 教育施策の効果と評価 (講義・演習)</li> </ol> <p>(共同方式/全15回)</p> <p>(2 加治佐哲也/10回)</p> <p>本授業の担担者として、1. 教育施策の概念と特性 (講義)、2. 教育施策の目標・内容 (講義・演習)、3. 教育施策の形成過程 (講義)、4. 教育施策の実施過程 (演習) を講義するとともに、演習を計画し、実施する。</p> <p>(4 浅野良一/5回)</p> <p>5. 教育施策の効果と評価 (講義・演習) を中心的に担担し、講義するとともに、演習を計画し、実施する。</p>   | 共同方式<br>(現職の教育施策担<br>当者等をゲストスピ<br>ーカとして招く。) |

|         |      |   |  |                                |
|---------|------|---|--|--------------------------------|
|         |      |   | <p>(3 鬼頭英明／3回)<br/>教育施策の形成、実施過程、評価の実情や課題について実務経験者の立場から講義する。演習の助言者としても加わる。</p> <p>(兼任 木岡一明／3回)<br/>教育施策の形成、実施過程、評価の実情や課題について実務経験者の立場から講義する。演習の助言者としても加わる。</p>   |                                |
| 学校経営コース | 専門科目 | 教育法規の理論と実務演習<br>(Educational Law)   | <p>(概要)<br/>学校、教員の法的責任に関して適切に理解するとともに、職務を遂行していく上で直面する諸問題に適切に対処するために必要な法的思考力を身につけることを目標とする。教育法規に関する基本事項を概説するとともに、事例に即した実務演習、さらには受講生自らが演習問題を考え、指導を行う受講生企画の実務演習を行う。取り上げる事例は、児童・生徒の管理、生徒指導、学校事故、教職員の管理に関するものである。</p> <p>(共同方式／全15回)</p> <p>(1 廣岡徹／4回)<br/>児童・生徒の管理、生徒指導、学校事故、教職員の管理に関して、学校現場でよく遭遇する事例を紹介し、具体的に何が問題となっているのか、その実態について講義するとともに、その講義に関連した演習問題を作成し、指導を行う。</p> <p>(7 竺沙知章／6回)<br/>本授業の担者として、学校指導職が教育法規を学ぶことの意義を講義し、また児童・生徒の管理、生徒指導、学校事故、教職員の管理に関わる基本的な法規について、法規の条文の解釈を示すとともに、判例に基づきながら、学校・教員の法的責任がどのように問われているのか、講義を行う。また演習問題を作成し、指導を行う。</p> <p>(1 廣岡徹, 7 竺沙知章, 3 鬼頭英明／共同方式：6回)<br/>受講生企画の実務演習に対して、事前に演習問題作成、演習の進め方について助言するとともに、最後に演習の様子について講評する。</p> | 共同方式                           |
| 学校経営コース | 専門科目 | 学校組織マネジメントと学校評価<br>(Organizational Management and Evaluation for Schools) | <p>(概要)<br/>本授業では、共通科目の「教員のための学校組織マネジメントの実践演習(現職教員対象)」における学校組織マネジメント・学校自己評価の理論と実践方法の基本の習得を前提として(と並行して)、学校管理職と教育行政職に求められる学校組織マネジメント・学校自己評価の実践的力量を、数多くの事例分析と豊富な実践的トレーニングを通じて育成する。<br/>本授業は次の内容で構成される。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校組織マネジメントおよび学校評価の理論とスキル(講義)</li> <li>2. 各都道府県の学校評価ハンドブック(および文部科学省「学校評価ガイドライン」)の比較分析(演習)</li> <li>3. 組織マネジメント・学校評価による学校経営改善事例の収集と分析(演習)</li> <li>4. 学校組織マネジメント研修の指導者経験(実習)</li> <li>5. 現任校についての学校自己評価システムの構築(演習)</li> </ol> <p>(共同方式／全15回)</p>   | 共同方式<br>(現職の校長をゲストスピーカーとして招く。) |

|         |      |   |   |      |
|---------|------|---|---|------|
|         |      |   | <p>(4 浅野良一／15回)<br/>本授業の主导者として、全般において中心的に講義するとともに、演習を計画し、実施する。</p> <p>(2 加治佐哲也／10回)<br/>全般において講義を補助するとともに、演習の指導者を務める。</p> <p>(8 武井敦史／10回)<br/>全般において講義を補助するとともに、演習の指導者を務める。</p> <p>(兼任 木岡一明／3回)<br/>講義を補助するとともに、演習の指導者を務める。</p>   |      |
| 学校経営コース | 専門科目 | 教職員職能開発と研修プログラムの開発<br>(Staff Development and Training Program)                  | <p>(概要)<br/>今後は地方分権化の推進と学校自律性の向上に伴い、地方自治体および単位学校において、教職員の自助努力の啓発と、これを支援・サポートする研修プログラムとを有機的に関連づけ、体系的な職能成長のシステムを確立する必要があります高まるであろう。本授業はこの点をふまえ、職能成長のトータルサポートの視点から、教育委員会の研修プログラムや校内研修等について検討する。単位学校や教育委員会において研修等、教職員の職能成長システムを構築する力量の獲得をめざす。<br/>なお、本授業は授業全体を回数に分けて教員間で分担担当する、いわゆるオムニバス形式の授業ではない。各回とも授業は原則として3名の教員のチームティーチングによって行われる。授業計画は下記の担当が中心となって企画・推進されることになる。</p> <p>(共同方式／全15回)</p> <p>(4 浅野良一／15回)<br/>全体の統括と「コーチングとメンタリング」(第4回～第5回)についての授業企画を担当する。</p> <p>(1 廣岡徹／15回)<br/>「校内研修の組織化と学校の研究推進」(第6回～第8回)「職員会議の改善」(第9回～第10回)についての授業企画を担当する。</p> <p>(2 加治佐哲也／15回)<br/>「大学における教員養成」(第2回～第3回)「教育委員会における職能開発の取り組みと教職員評価」(第11回～第14回)についての授業企画を担当する。</p> <p>(6 渡邊規矩郎／5回)<br/>「校内研修の組織化と学校の研究推進」(第6回～第8回)「職員会議の改善」(第9回～第10回)についての授業企画を担当する。</p> | 共同方式 |
| 学校経営コース | 専門科目 | 開かれた学校づくりの事例と実践演習<br>(Management of Making School Open to Family and Community) | <p>(概要)<br/>開かれた学校づくりを進めていく力量を身につけることを目標とする。そのために、学校経営を進めていくうえで必要となる保護者や地域住民などの外部関係者との関係を円滑にしていく力量、地域資源を積極的に活用した特色ある学校づくりのための経営的力量の育成を図る。開かれた学校経営や地域資源の活用などの基本的な事項に関して講義を行うとともに、実態に即した実践的課題についての講義、先進事例の視察、事例に即した実践演習、開かれた学校づくりのプラン作成を行う。</p>   | 共同方式 |

|         |      |   |      |
|---------|------|---|------|
|         |      | <p>(共同方式／全15回)</p> <p>(1 廣岡徹／2回)<br/>開かれた学校運営、地域資源を活用した特色ある学校づくりに関して、学校の実態に関する講義を行い、学校経営上の意義、実際に取り組む際の留意点などを概説する。</p> <p>(7 竺沙知章／2回)<br/>本授業の主体者として、保護者や地域住民を参画させる学校経営のあり方、情報発信のあり方について、その基本的な考え方を講述する。</p> <p>(8 武井敦史／1回)<br/>地域の関係機関との連携のあり方について、その基本的な考え方を講述する。</p> <p>(9 大野裕己／2回)<br/>地域資源を活用した特色ある学校づくり、地域での体験活動の推進のあり方について、その基本的な考え方を講述する。</p> <p>(1 廣岡徹、7 竺沙知章、8 武井敦史、9 大野裕己、兼任 木岡一明／共同方式：8回)<br/>開かれた学校づくりの先進事例への現地訪問の指導、開かれた学校づくりの実践演習の企画と指導、開かれた学校づくりのプラン作成に対する指導を行う。</p>   |      |
| 学校経営コース | 専門科目 | <p>カリキュラムの開発と学校の特色づくり<br/>(Curriculum Management for School Renovation)</p> <p>(概要)<br/>学校裁量の拡大に伴い単位学校レベルでの教育課程の開発が焦眉の課題となる中で、子どもの学習はどのようにデザインされることになるのか。本授業では、近年の教育課程経営の改革動向をふまえ、「新しい学校」像を視野に入れて教育課程開発の視点を探る。特に学校組織の観点から、単位学校においてカリキュラム開発を主導していくことの出来る力量の育成をめざす。<br/>なお、本授業は授業全体を回数に分けて教員間で分担担当する、いわゆるオムニバス形式の授業ではない。各回とも授業は原則として2名の教員のチームティーチングによって行われる。授業計画は下記の担当が中心となって企画・推進されることになる。</p> <p>(共同方式／全15回)</p> <p>(8 武井敦史／15回)<br/>全体の統括と「教育課程経営の基礎理論と教育改革動向」(第1回～第4回)「学校のカリキュラム開発と学校組織」(第11回～第14回)についての授業企画を担当する。</p> <p>(1 廣岡徹／15回)<br/>「教育課程と「学力」問題」(第5回～第7回)「新しい指導形態と学習の模索」(第8回～第10回)についての授業企画を担当する。</p> <p>(9 大野裕己／4回)<br/>「学校のカリキュラム開発と学校組織」(第11回～第14回)についての授業企画を担当する。</p> <p>(5 西岡伸紀／2回)<br/>「教育課程経営の基礎理論と教育改革動向」(第1回)及び本授業科目の総括まとめ(第15回)についての授業企画を担当する。</p> | 共同方式 |

|         |      |  |  |      |
|---------|------|--|--|------|
|         |      |  | (兼担 勝野眞吾/2回)<br>「教育課程経営の基礎理論と教育改革動向」(第1回)及び本授業科目の総括まとめ(第15回)についての授業企画を担当する。  |      |
| 学校経営コース | 専門科目 | 学校危機管理の理論と事例演習<br>(Risk Management in Schools)                         | (概要)<br>子どもが被害者となる事件を防いだり、学校の教育活動に伴う様々な事故やトラブルを防いだり、適切に対処するための学校危機管理を実践していく力量を身につけさせることを目標とする。学校危機管理に関する基本的な考え方、方策について、事例に即した講義を行うことによりその理解を深めるとともに、事例演習により実践的力量を養うとともに、学校危機管理マニュアルの分析やプランの作成を行うことにより、学校危機管理体制を構築する力量の育成を行う。<br><br>(共同方式/全15回)<br><br>(1 廣岡徹/4回)<br>学校でよく起こる様々なトラブルや事故などの事例を紹介するとともに、そこにおける危機管理の実践上の問題点、留意点について講義と演習の指導を行う。特に教職員の不祥事、外部者への対応について担当する。<br><br>(7 竺沙知章/6回)<br>本授業の主体者として、学校危機管理に関する基本的な考え方、留意点について概説的な講義を行うとともに、生徒指導への対応、学校事故への対応、情報セキュリティへの対応について、実践上の問題点、留意点について講義と演習の指導を行う。<br><br>(5 西岡伸紀/1回)<br>防犯、防災に関わる危機管理について、実践上の問題点、留意点について講義を行う。<br><br>(1 廣岡徹、7 竺沙知章、5 西岡伸紀、兼担 勝野眞吾、3 鬼頭英明/共同方式:4回)<br>地方自治体で作成されている学校危機管理マニュアルの比較分析の指導、学校危機管理プランの作成に対する指導を行う。 | 共同方式 |
| 学校経営コース | 専門科目 | 学校改善のための教育調査法<br>(Educational Research Methods for School Improvement) | (概要)<br>学校の活動に対する教職員や保護者・地域の共通理解はこれからの学校づくりにとって不可欠の前提である。そしてこうした共通理解を図り、さらに組織的改善につなげていくためには、生徒や保護者、教育活動の実態を適切な方法を用いて正確に把握し、合理的に説明することが求められる。本授業ではこうした理解を念頭に置き、スクールリーダーにとって必要な資料収集・分析・総合・説明の能力の向上をはかる。<br><br>(共同方式/全15回)<br><br>(8 武井敦史/10回)<br>全体の統括と「フィールド調査の考え方と技法」(第4回～第9回)を担当する。ここではまず、フィールド調査の基本的な考え方を学び、調査に当たって問題意識を持つことの重要性、調査における「信頼性」と「妥当性」について理解し、これらを向上させるための手だてについての理解を促す。またフィールド調査にあたって必要な準備と実施に当たっての諸注意やモノグラフの作成方法について講義を行う。これらの理解をもとに、模擬的にフィールド調査を実施する。さらにその調査結果をレポートにまとめ、発表し公表しあうことをとおして、フィール   | 共同方式 |

|                |                            |   |             |
|----------------|----------------------------|---|-------------|
|                |                            | <p>ドワーク実施能力の向上を図る</p> <p>(兼担 宮元博章／10回)<br/>「アンケート調査の実践演習」(第10回～第14回)を担当する。統計調査にはどのような種類の調査があるか？その基本について事例を用いて講義し、質問紙の作成から実施にいたるまでの手順と留意点、得られたデータを、適切に処理しその結果を解釈するための技法について理解を深める。これらの講義をもとに、模擬的にアンケート調査を実施する。さらにその調査結果をレポートにまとめ、発表し公表しあうことをとおして、フィールドワーク実施能力の向上を図る。</p> <p>(5 西岡伸紀／5回)<br/>「資料収集・調査の種類とデザイン」を担当する。調査のために必要となる基礎資料の収集方法と、先行調査の検討の仕方、および様々な調査方法を取捨選択し調査をデザインしていく方法について事例を用いて講義・演習する。</p> <p>(兼担 勝野眞吾／3回)<br/>「資料収集・調査の種類とデザイン」を担当する。調査のために必要となる基礎資料の収集方法と、先行調査の検討の仕方、および様々な調査方法を取捨選択し調査をデザインしていく方法について事例を用いて講義・演習する。</p> <p>(兼担 久井英輔／10回)<br/>「資料収集・調査の種類とデザイン」を担当する。調査のために必要となる基礎資料の収集方法と、先行調査の検討の仕方、および様々な調査方法を取捨選択し調査をデザインしていく方法について事例を用いて講義・演習する。</p>   |             |
| <p>学校経営コース</p> | <p>専<br/>門<br/>科<br/>目</p> | <p>学校改善プラン・教育行政改善プランの開発<br/>(Planning for Improving School Management (Educational Adomistration))</p> <p>(概要)<br/>学校経営もしくは教育行政の実践を改善するための具体的な計画を作成する。原則として、現任校（もしくは勤務する教育委員会）について行う。それまでの講義・演習、フィールドワーク、インターンシップを通じて学習し、発見したことを集約し、それらに基づいて、特色ある学校(魅力ある学校)づくりのためのミッションと教育目標を創造し、それを実現するための経営方針、教育課程・教育活動、組織体制などを考案する。それらを改善計画のなかに文書にしてまとめるとともに、その内容をプレゼンテーションする。これらを通じて、学校経営・教育行政の実践と改善の拠り所となるトータルな計画の作成能力を養う。</p> <p>(共同方式／全15回)</p> <p>(2 加治佐哲也／15回)<br/>主担者として全体の進行計画をつくとともに、担当学生の個別指導にあたり、またプレゼンテーションの場等での全体指導も行う。</p> <p>(1 廣岡徹／15回)<br/>担当学生の個別指導にあたり、プレゼンテーションの場等での全体指導も行う。また、学校等のフィールド等の連絡調整を中心的に行う。</p> <p>(4 浅野良一／15回))<br/>担当学生の個別指導にあたり、プレゼンテーションの場等での全体指導も行う。</p> <p>(7 笠沙知章／15回))<br/>担当学生の個別指導にあたり、プレゼンテーションの場等での全体指導も行う。</p> | <p>共同方式</p> |

|         |                         |   |                   |
|---------|-------------------------|---|-------------------|
|         |                         | <p>( 8 武井敦史／15回)<br/>担当学生の個別指導にあたり、プレゼンテーションの場等での全体指導も行う。</p> <p>( 3 鬼頭英明一／15回))<br/>担当学生の個別指導にあたり、プレゼンテーションの場等での全体指導も行う。</p> <p>( 5 西岡伸紀／15回)<br/>担当学生の個別指導にあたり、プレゼンテーションの場等での全体指導も行う。</p> <p>( 9 大野裕己／15回)<br/>担当学生の個別指導にあたり、プレゼンテーションの場等での全体指導も行う。</p> <p>(兼任 木岡一明／15回)<br/>担当学生の個別指導にあたり、プレゼンテーションの場等での全体指導も行う。</p>   |                   |
| 学校経営コース | 実習科目<br>学校経営専門職インターンシップ | <p>(概要)<br/>学校において学校経営に長期間参画しながら 学校経営の実際や校長・教頭のリーダーシップを観察・体験し、学校の経営者としての資質力量を養う。2年次の9月～12月に最低2ヶ月(8週)間実施する。原則として学生の現任校において行う。数日間(1週間)の校長・教頭のシャドウイング(shadowing)を必須とする。実習の前後あるいは並行してセミナーを行う。</p> <p>( 1 廣岡徹)<br/>インターンシップ担当のスーパーバイザーとして、全体の実施計画と指導計画を作成する。インターンへの事前指導、インターンシップ地との連絡調整、訪問指導等を中心に行う。セミナーを計画実施する。</p> <p>( 2 加治佐哲也)<br/>全体の実施計画と指導計画の作成を補助する。インターンへの事前指導、インターンシップ地への訪問指導等を行う。セミナーに参加し、指導する。</p> <p>( 4 浅野良一)<br/>インターンへの事前指導、インターンシップ地への訪問指導等を行う。セミナーに参加し、指導する。</p> <p>( 7 竺沙知章)<br/>インターンへの事前指導、インターンシップ地への訪問指導等を行う。セミナーに参加し、指導する。</p> <p>( 8 武井敦史)<br/>インターンへの事前指導、インターンシップ地への訪問指導等を行う。セミナーに参加し、指導する。</p> <p>( 3 鬼頭英明)<br/>インターンへの事前指導、インターンシップ地への訪問指導等を行う。セミナーに参加し、指導する。</p> <p>( 5 西岡伸紀)<br/>インターンへの事前指導、インターンシップ地への訪問指導等を行う。セミナーに参加し、指導する。</p> | 本コースの専任教員全員が担当する。 |



|         |      |                 |   |                   |
|---------|------|-----------------|---|-------------------|
|         |      |                 | <p>( 6 渡邊規矩郎)<br/>インターンへの事前指導、インターンシップ地への訪問指導等を行う。セミナーに参加し、指導する。</p> <p>( 9 大野裕己)<br/>インターンへの事前指導、インターンシップ地への訪問指導等を行う。セミナーに参加し、指導する。</p>  |                   |
| 学校経営コース | 実習科目 | 教育行政専門職インターンシップ | <p>(概要)<br/>教育委員会等において教育行政に長期間参画しながら、施策立案の実際や指導主事等の職務を観察・体験し、教育行政の担当者としての資質力量を養う。2年次の9月～12月に最低2ヶ月(8週)間実施する。原則として学生の勤務する教育委員会事務局(本庁、教育事務所等)において行う。数日間(1週間)の所属長(課長、主幹、主任指導主事、教育長など)のシャドウイング(shadowing)を必須とする。実習の前後あるいは並行してセミナーを行う。</p> <p>( 1 廣岡徹)<br/>インターンシップ担当のスーパーバイザーとして、全体の実施計画と指導計画を作成する。インターンへの事前指導、インターンシップ地との連絡調整、訪問指導等を中心に行う。セミナーを計画実施する。</p> <p>( 2 加治佐哲也)<br/>全体の実施計画と指導計画の作成を補助する。インターンへの事前指導、インターンシップ地への訪問指導等を行う。セミナーに参加し、指導する。</p> <p>( 4 浅野良一)<br/>インターンへの事前指導、インターンシップ地への訪問指導等を行う。セミナーに参加し、指導する。</p> <p>( 7 竺沙知章)<br/>インターンへの事前指導、インターンシップ地への訪問指導等を行う。セミナーに参加し、指導する。</p> <p>( 8 武井敦史)<br/>インターンへの事前指導、インターンシップ地への訪問指導等を行う。セミナーに参加し、指導する。</p> <p>( 3 鬼頭英明)<br/>インターンへの事前指導、インターンシップ地への訪問指導等を行う。セミナーに参加し、指導する。</p> <p>( 5 西岡伸紀)<br/>インターンへの事前指導、インターンシップ地への訪問指導等を行う。セミナーに参加し、指導する。</p> <p>( 6 渡邊規矩郎)<br/>インターンへの事前指導、インターンシップ地への訪問指導等を行う。セミナーに参加し、指導する。</p> <p>( 9 大野裕己)<br/>インターンへの事前指導、インターンシップ地への訪問指導等を行う。セミナーに参加し、指導する。</p> | 本コースの専任教員全員が担当する。 |

| 授 業 科 目 の 概 要<br>(学校教育研究科教育実践高度化専攻) |   |  |      |
|-------------------------------------|---|--|------|
| 科目<br>区分                            | 授業科目の名称   | 講義等の内容   | 備考   |
| 授業<br>実践<br>リー<br>ダー<br>コー<br>ス     | 専<br>門<br>科<br>目<br><br>メンタリングの理<br>論と実践<br>(Teacher<br>Mentoring<br>: Theory and<br>Practice)  | <p>(概要)<br/>教育専門職としての資質・能力の形成と向上をめざす教育実習や現職研修等において、実習生や研修者に適切な指導・助言等を与えるための理論的知見と実践的方法・技術を学び、教育実践改善のメンターとしての資質能力の基礎を啓培することを目的とする。Ⅰ. 教員養成・研修におけるメンタリングの目的及び意義, Ⅱ. メンタリング理論と実習・研修場面を想定したメンタリングのもち方, Ⅲ. 教育実習生, 初任者等を想定したメンタリングの実際, について講義と事例研究, ロールプレイと模擬実習を交えながら実践的に学習させる。</p> <p>(共同方式/全15回)<br/>(13 長澤憲保/9回)<br/>「教員養成・研修におけるメンタリングの目的及び意義」, 「教育実習生や初任者等を想定したメンタリングの実際」を担当する。前者では, 教員養成及び現職研修の今日的課題, 求められる教員の専門的資質能力基準, 教員の組織的・計画的養成・研修とメンタリングのあり方等について講義と事例研究を行う。後者では, 実務家教員と共同し, 専門的資質能力基準に即したメンタリングの実践力を養うため, 具体的場面を想定したロールプレイや模擬メンタリング実習を行う。</p> <p>(18 天根哲治/9回)<br/>本授業を総括するとともに, 「メンタリング理論と実習・研修場面を想定したメンタリングのもち方」を担当する。メンタリングに関する諸研究や対人関係, コミュニケーション・スキル, リーダーシップ等に関する社会心理学的理論を基に, メンティに対するメンターの望ましい支援行動について考察する。信頼関係の育成, 自己洞察と気づきの支援, ヴィジョンと改善目標の設定, 内発的動機づけと支援のコミュニケーション, 効果測定等について講義と事例研究・ロールプレイを通して学ぶ。</p> <p>(兼任 山本恵三/5回)<br/>「教育実習生, 初任者等を想定したメンタリングの実際」を担当する。専門的資質能力基準に即したメンタリングの実践力を養うため, 具体的場面を想定したロールプレイや模擬メンタリング実習の指導を長澤と共同で行う。その際, 教育現場での教育実習生の指導や初任者研修担当の経験を生かして, 特に実践的な観点からアドバイスをを行う。また, 長澤・天根と共同し, メンタリング実習場面を教例取り上げて講評を行うとともに, 実践的課題について討論する。</p> | 共同方式 |
| 授業<br>実践<br>リー<br>ダー<br>コー<br>ス     | 専<br>門<br>科<br>目<br><br>教育実践者の専門<br>的な思考形式とそ<br>の知識基盤<br>(Professional<br>Thinking and<br>knowledge Base<br>for Educational<br>Practitioners) | <p>(概要)<br/>この科目のねらいは、教育専門職として自らの資質・能力の形成・向上をめざす教師やその教育実践改善に指導・助言を与えるメンターが、適切な判断や行為の選択ができるように、教育実践者の独自の認識・思考形式とその知識基盤を理解・修得することによって、実践的課題解決能力を向上させることにある。</p> <p>とりわけ、次の3点に焦点を当てる。</p>   | 共同方式 |

|             |      |  |   |      |
|-------------|------|--|---|------|
|             |      |  | <p>○優れた教育実践者の実践過程における認識・思考、判断・意思決定、行為選択、反省、改善等に見られる特徴、その教育専門職としての資質能力の理解</p> <p>○優れた教育実践者の専門的な知識基盤の理解、教育実践改善をめざす専門的資質能力のあり方と自己特性の理解等</p> <p>○児童・生徒の学習や思考の特徴をふまえた適切な指導構想のあり方</p> <p>(共同方式／全15回)</p> <p>(43 別惣淳二／11回)</p> <p>初心者と優れた教育実践者の認識・思考、判断・意思決定、行為選択等の比較研究等、欧米等の教師発達研究の成果に基づきながら、優れた教育実践者の認識・思考等の特徴を構造的・機能的に理解させる。</p> <p>今日、学校教育を巡る諸問題への効果的対応を教員の高度な実践的指導力の形成・向上等によって克服しようとする、日本の教員養成／研修制度の改革、教員免許状取得／更新制度の改革、教職大学院制度の創設等における理念や背景となる社会的ニーズ等について考えさせ、変化する諸状況のなかで、高度な教育実践を展開し、専門職として信頼される資質能力を生涯にわたって維持・発展させるために、反省的实践家としての自己研鑽・相互研鑽のあり方の重要性について考えさせる。</p> <p>(13 長澤憲保／6回)</p> <p>優れた教育実践者の実践過程における認識・思考、判断・意思決定、行為選択、反省、改善等に見られる特徴、及びその教育専門職としての高度な実践的資質能力や専門的知識基盤のあり方に関する教師教育研究の成果に基づいて、教育実践改善をめざす専門的資質能力のあり方、特に授業実践力開発の観点から、マイクロティーチング実習等において、実践的な指導・助言を行うとともに、本授業を総括する。</p> <p>(19 黒岩督／4回)</p> <p>授業における教育実践者の専門的な思考や認識の形態と、それを支える知識的な基盤について理解させる。とりわけ、児童・生徒における望ましい学習を促進するための教師の適切な思考支援の観点から、メタ認知、クリティカル・シンキング、認知カウンセリング、パーソナル・セオリーを取り上げ、具体的な実践事例をもとにしながら検討することによって、思考過程を重視した優れた授業を構想・展開・評価していくための指導的力量を高める。</p> |      |
| 授業実践リーダーコース | 専門科目 | 教育実践研究の組織化と推進<br>(Organization and Promotion of Educational Practice Research) | <p>(概要)</p> <p>この科目のねらいは、教育実践活動を組織化・活性化し、効果的な教員研修を創意工夫して推進できる研究リーダー・研修ファシリテーターの力量を身に付けることにある。そのために、教育実践研究における課題発見、仮説設定、研究推進体制の組織化、課題解決の取組推進、成果評価に関する優れた取組の理論と方法・技術を習得することを旨とする。</p> <p>(共同方式／全15回)</p> <p>米田豊が本授業全体を総括する。</p> <p>(17 岩田一彦, 15 米田豊, 22 永田智子／7回)</p> <p>教育実践研究を課題発見、仮説設定、研究推進体制の組織化、課題解決の取組推進、成果評価の視点から分析するフレームワーク「教育実践研究分析フレームワーク」を設定する。このフレームワークをもとにして、学校紀要や研</p>   | 共同方式 |

|             |      |  |   |      |
|-------------|------|--|---|------|
|             |      |  | <p>研究成果報告書等を研究リーダー・研修ファシリテーターとしての役割と機能に焦点を絞って分析し、それらの特徴と課題を明らかにする演習を行う。(校種別に分かれて5回演習を行う。小学校担当：永田，中学校担当：米田，全体の総括：岩田) 第1回目にはオリエンテーションを，第15回目にはまとめを岩田，米田，永田で行う。</p> <p>(15 米田豊，22 永田智子，兼任 梅田規誉，兼任 山本恵三／3回)</p> <p>上記5回の研究成果をもとにして，教育実践研究の組織化の理論について，課題発見・仮説設定・研究推進体制の組織化・課題解決の取組推進・教職員の構成・教職員の特性(研究リーダー・研修ファシリテーター)等の要素から分析的に講義する(1回 講義 米田、永田)。また，非常勤講師が，実践をふまえた特色ある教育研究を進めるための組織の理論について講義を行う(1回 講義 梅田，山本)。さらに，指定研究学校等の事例を分析し，その結果を発表するとともに，「教育実践研究組織」のモデル開発を行う(1回 演習 米田，永田，梅田，山本)。</p> <p>(兼任 服部英雄：2回分)</p> <p>教育実践研究の組織化と推進の視点から，附属小学校研究主任から附属小学校の特色ある研究組織の理論やその成果を生かした授業の理論について講義を受ける。受講生は，「教育実践研究組織分析フレームワーク」や習得した理論をもとにして質疑・討論をする。</p> <p>(17 岩田一彦，15 米田豊，22 永田智子，兼任 梅田規誉，兼任 山本恵三，兼任 服部英雄／3回)</p> <p>現職大学院生とストレート大学院生が，大学院生の現任校の教育研究体制について，本授業で習得した理論をもとにした分析を行うとともに改善策を検討し，全体で討議する(2回 校種別の演習 小学校担当：永田，中学校担当：米田，全体の総括：岩田)。また，最後に，受講生の代表が教育実践研究組織の理論について発表するとともに，それをもとにして本授業を反省し，成果と課題について議論する。特に，授業科目として改善すべき点と，個人ないし班で反省すべき点を区別して議論し，教員と学生双方にとっての今後の課題を明らかにする。(1回 指導助言。小学校担当：永田，中学校担当：米田，全体の総括：岩田，梅田，山本，服部は教育現場の立場。)</p> |      |
| 授業実践リーダーコース | 専門科目 | <p>学校における実践課題の発見・探究過程<br/>(Discovery and Investigation Processes of Practical Problems in Schools)</p> | <p>(概要)<br/>この科目のねらいは，学校の実践課題を探究・解決し，さらに改善していくための授業研究の理論と方法を身に付けることにある。学校の実践課題を収集，分析するとともに，その実践課題を探究・解決する過程について分析，検討する。次に，学校の実践課題の探究・解決過程についての評価内容を分析し，改善のための実践研究デザインを設計する演習を行う。最後に，モデル研究推進過程の作成と発表の演習を行う。</p> <p>(共同方式/全15回)<br/>米田豊が本授業全体を総括する。</p> <p>(17 岩田一彦，15 米田豊，兼任 西本弘子／5回)</p> <p>課題探究的な授業研究の理論及び方法・技術について，小学校・中学校の事例をもとにして論じる(1回 講義 小学校担当：西本，中学校担当：米田，全体の総括：岩田)。ここで習得した理論及び方法・技術をもとにして，現任校(小学校・中学校)や指定研究学校等の実践課題を抽出，分析する。(1回 演習 小学校担当：西本，中学校担当：米田，全体の総括：岩田)</p>  | 共同方式 |

|                    |             |   |  |             |
|--------------------|-------------|---|--|-------------|
|                    |             |   | <p>次に、抽出・分析した実践課題を解決するための理論及び方法・技術について論じる（1回 講義 小学校担当：西本，中学校担当：米田，全体の総括：岩田）。最後に、習得した理論及び方法・技術をもとにして現任校（小学校・中学校）や指定研究学校等の実践課題を解決する探究過程について演習を行う。（2回 演習 小学校担当：西本，中学校担当：米田，全体の総括：岩田）。</p> <p>（19 黒岩督，21 森山潤，兼任 西本弘子／5回）<br/>       学校の実践課題の設定・探究・解決過程についての評価内容を分析し、改善のための実践研究デザインの設計演習を行う。学校の実践課題の収集と分析、探究過程の分析で取り上げた事例に即しながら、評価の尺度水準や統計法の考え方や意味、記述的・相関的・因果的分析の方法の特徴を理解させ、適用上の問題点・改善点・留意点を検討する。さらに、これらの分析手法に対する理解を基盤にして、評価内容の分析にもとづいて実践研究のデザインをするための方法・技術を習得させる。</p> <p>（17 岩田一彦，15 米田豊，19 黒岩督，21 森山潤，兼任 西本弘子／5回）<br/>       オリエンテーションでは、本授業の全体計画と目的について理解し、学習グループ編成を行う。（1回 岩田，米田，黒岩，森山，西本）<br/>       地域事情，学校規模，職員構成，子どもの特質等を勘案しながら，モデル研究推進過程を設計し，提案・討議を行う。（2回 演習 岩田，米田，黒岩，森山，西本）<br/>       最後の第15回でまとめを行う。（1回 演習・講義 岩田，米田，黒岩，森山，西本）。</p>               |             |
| <p>授業実践リーダーコース</p> | <p>専門科目</p> | <p>学校カリキュラムのデザインー開発とその評価ー<br/>       (Design of School curriculum : Development and Evaluation)</p> | <p>（概要）<br/>       各校の自然的・社会的地域環境や児童・生徒の実態等に即して作成される学校カリキュラムの構想・開発と評価に関する理論及び方法・技術の習得を目標とする。教育現場の豊かな発想と理論とデータに基づく学校カリキュラムの開発力，多面的な評価指標と証拠に基づく評価・改善を進めていく力量形成をめざす。小学校や中学・高校で開発された学校カリキュラムの事例研究から始め，問題点を意識しながら，カリキュラム・デザインや開発の理論を学び，さらに評価のためのデータ収集と分析の理論・技法についてグループ実習を通して実践的に学ぶ。</p> <p>（共同方式／全15回）</p> <p>（15 米田豊／4回）<br/>       「教育現場における学校カリキュラムの考え方と実態」，「小学校，中学校，高等学校において開発された学校カリキュラムの事例研究」を塚本と共同担当する。指導主事や教員としての実務経験を基に，教育現場における学校カリキュラムの考え方と実態について考察し，事例の紹介と検討を行う。主に，小学校の事例を取り上げ，カリキュラム開発の背景や経緯，理論，特色，実践と評価等，現場での取り組みに学ぶとともに，批判的に検討する。</p> <p>（兼任 塚本一男／4回）<br/>       「教育現場における学校カリキュラムの考え方と実態」，「小学校，中学校，高等学校において開発された学校カリキュラムの事例研究」を米田と共同担当する。教員としての実務経験と現場のセンスを基に，主に，中学校・高等学校の事例を取り上げ，カリキュラム開発の背景や経緯，理論，特色，実践と評価等，現場での取り組みに学ぶとともに，批判的に検討する。</p> | <p>共同方式</p> |

|                                     |                  |  |   |      |
|-------------------------------------|------------------|--|---|------|
|                                     |                  |  | <p>(23 伊藤博之／6回)<br/>         共通科目「特色あるカリキュラムづくりの理論と実際」の内容を土台として、学校カリキュラムの構造と開発の理論について理解を深める。「学校」カリキュラムの位置と固有性を理解し、カリキュラム・デザインのための理論的・実践的知識を得ることを期する。その際、「隠れたカリキュラム」への留意や目標創出型カリキュラムの必要性に関わる理論的・実践的知見という2つの視点、更に「いのち、生きることの教育」や「メディア・リテラシーの教育」など現代的な課題に果敢に挑戦している教育課程の理論と実際を具体的に検討する。</p> <p>(18 天根哲治／9回)<br/>         本授業を総括するとともに、「学校カリキュラムの評価の方法と技術」を担当する。学校カリキュラムの構想・開発と評価・改善を証拠に基づいて進めるため、多面的な評価指標と評価基準の設定、量的・質的データの収集・分析方法の選択、分析結果に基づく開発や改善への提言を行う力量形成を目指す。関連する共通基礎科目での学習内容と関係づけながら、主に、地域社会・住民や児童生徒・教師の実態、意識・態度などを把握したり、教育目標（特に情意領域）の達成度からカリキュラムの評価と改善を行う際に有用と思われるいくつかの方法に限定し、グループ実習を通して実践的に指導する。</p>   |      |
| 授業実践リ<br>ー<br>ダ<br>ー<br>コ<br>ー<br>ス | 専<br>門<br>科<br>目 | 学習環境の開発と改善<br>(Development and Improvement of learning Environments) | <p>(概要)<br/>         子どもたちの学びを促進するための教室内外の学習環境のあるべき姿を検討し、学習環境の開発と改善の方策を学ぶことを目標とする。ICT(Information &amp; Communication Technology)の応用によって切り拓かれつつある新しい学習環境開発の可能性に言及する中から、学校現場との同時的コミュニケーションにもつとめ、子どもの学習意欲を喚起・向上させるには、どのように学習環境を改善していくべきかを学ぶ。授業の後半には、受講生の現任校を含め、実際に見聞した特定の学校・学級の学習環境を想定した改善方策のシミュレーションを発表し、相互評価を通して学習環境開発・改善方法を実践的に習得する。</p> <p>(共同方式／全15回)</p> <p>(12 増澤康男／6回)<br/>         本授業を総括するとともに、総合的な学習の時間の導入をきっかけとして行われてきた、新しい学習環境の開発・改善の方策と求められる学習環境のあり方についての講義・演習を担当する。特に、博物館、科学館、動物園、自然学校等の利用による主体的・創造的・体験的な学習の場としての学校外の学習環境の利用、更には、整備された図書館・学校外の的確な人材からの聞き取り・インターネットの正しい活用等、的確な情報収集を可能とし、情報発信をも支援できる学習環境について、具体的な事例をあげながら考察を加え、その選択・整備・開発・改善の方策について講義する。また、関連した演習問題を解説し、受講生による学習環境改善のシミュレーションについて指導・評価する。</p> <p>(15 米田 豊／7回)<br/>         子どもの学びの成立についての理論的な考察と、子どもの学びと教室空間、学校内・学校外連携協力体制の組織化・ネットワーク化のあり方についての講義・演習を担当する。子どもの学びの成立については、知識の構造と有意義学習、理解の構造と有意義学習の理論を講義する。この理論を背景とし、また、実務経験と学校現場から直接得た具体的な事例をもとにして、子どもの学びを促進する教室空</p> | 共同方式 |

|                    |             |   |   |             |
|--------------------|-------------|---|---|-------------|
|                    |             | <p>間の利用法（オープンスペースの活用、児童・生徒のの配置、グループ学習・活動のあり方、教材・教具の配置等を含む）について、帰納的な理論抽出を行うと共に、よりよい学級・教室のあり方のモデル開発の演習・シミュレーションを指導・解説・評価する。同様に、子どもの学びを促進する学校内の連携・協力体制の組織化、並びに、学校と地域の連携・協力体制の組織化・ネットワーク化についても帰納的な理論抽出を行い、よりよい連携・協力体制のモデル開発の演習シミュレーションを指導・評価する。</p> <p>(23 伊藤博之／10回)</p> <p>子どもの学習意欲を喚起する学習環境のあり方と、現代の教育課題の一つとなっているICTを応用した新しい学習環境の改善の方策についての講義・演習を担当する。はじめに、子どもの学習意欲を喚起するための現代の方途の一つとして学びの文脈づくりと、これを志向した学習環境のあり方を提示する。さらに、ICTの進歩によってもたらされる学習環境改善の方策について、電子掲示板やデジタル・ポートフォリオ利用など、ネットワーク環境を「学びの道具」として活用しようとする具体的な応用事例をあげ、その利用法を指導する。同時に、ICT応用時の教師・子ども各々の意識すべき留意点と今後の課題についても言及し、ICTを応用した学習環境の創造についての理論的な整理を試みる。また、関連した演習問題を解説し、受講生による学習環境改善のシミュレーションについて指導・評価する。</p> <p>(兼任 塚本一男／5回)</p> <p>子どもの学びを促進する教室空間の利用法、学校内の連携・協力体制の組織化、学校と地域の連携・協力体制の組織化・ネットワーク化について、現任校を中心とした具体的な事例を提示し、これを成立させる学校の取り組みのあり方について解説する。また、関連した演習問題を解説し、受講生による学習環境改善のシミュレーションについて指導・評価する。</p> <p>(兼任 小山貞雄／5回)</p> <p>子どもの学びを促進する教室空間の利用法、学校内の連携・協力体制の組織化、学校と地域の連携・協力体制の組織化・ネットワーク化について、現任校を中心とした具体的な事例を提示し、これを成立させる学校の取り組みのあり方について解説する。また、関連した演習問題を解説し、受講生による学習環境改善のシミュレーションについて指導・評価する。</p> |   |             |
| <p>授業実践リーダーコース</p> | <p>専門科目</p> | <p>教科カリキュラム開発、単元開発・指導法開発及びその評価<br/>(Development and Evaluation of Curriculum, Units, and Teaching Methods)</p>  | <p>(概要)</p> <p>教科等における実践的なカリキュラム開発と単元開発の具体、および多様な実践的指導方法と評価方法について体系的に理解するとともに、特定授業についての授業構成・立案作成力と実践力を培うことを目的とする。教科カリキュラム開発については各校種別に教科カリキュラムの具体的な資料を基にした検討を通しながらカリキュラム開発・作成能力を身に付けることとし、単元開発・指導法開発については事例研究と模擬授業、その評価については事例研究とロールプレイを交えながら実践的に学習する。</p> <p>(共同方式／全15回)</p> <p>(16 佐藤真／13回)</p> <p>教科等における実践的なカリキュラム開発と単元開発、および多様な実践的指導方法と評価方法、また特定授業についての授業構成・立案作成について授業内容の概要と展開等の説明を行う。各教科等のカリキュラム・単元の収集</p> | <p>共同方式</p> |

|            |      |  |   |      |
|------------|------|--|---|------|
|            |      | <p>事例の検討として、実際の学校教育現場における各教科等のカリキュラムと単元の作成方法とその開発原理について考察する。各教科等のカリキュラム・単元的事例研究として、校種別また教科別等のグループ編成による実際の各教科等のカリキュラムおよび単元的事例研究を行う。上記の各教科等のカリキュラムと単元的事例研究から、カリキュラム及び単元の現在の課題を抽出し、モデル的なカリキュラムおよび単元の開発に向けた知見の整理を行う。課題別教科等カリキュラム・単元のモデル開発として、事例研究から抽出されたカリキュラムおよび単元開発に向けた課題別グループを編成し、それらの課題を克服する教科等カリキュラムおよび単元のモデル開発を行う。開発された教科等のモデルカリキュラム及び単元についてプレゼンテーションを行い、事例研究から抽出されたカリキュラム及び単元の課題の克服方策について討論する。カリキュラムと単元開発の総括をする。</p> <p>(14 松本伸示／11回)</p> <p>教科成立の理論と教科カリキュラムか剃髪の実践的検討として、学校教育における各教科の成立背景とその歴史的展開を踏まえた教科成立の実践的な検討と、その開発原理について考察を行う。各教科等のカリキュラム・単元的事例研究として、校種別また教科別等のグループ編成による実際の各教科等のカリキュラムおよび単元的事例研究を行う。上記の各教科等のカリキュラムと単元的事例研究から、カリキュラム及び単元の現在の課題を抽出し、モデル的なカリキュラムおよび単元の開発に向けた知見の整理を行う。課題別教科等カリキュラム・単元のモデル開発として、事例研究から抽出されたカリキュラムおよび単元開発に向けた課題別グループを編成し、それらの課題を克服する教科等カリキュラム及び単元のモデル開発を行う。開発された教科等のモデルカリキュラム及び単元についてプレゼンテーションを行い、事例研究から抽出されたカリキュラム及び単元の課題の克服方策について討論する。</p> <p>(20 吉水裕也／11回)</p> <p>各教科等における単元開発上の実践的検討として、各教科等の単元開発について、単元目標・内容と児童・生徒の実態等を手がかりとした実際の各教科の単元開発について検討を行う。各教科等のカリキュラム・単元的事例研究として、校種別また教科別等のグループ編成による実際の各教科等のカリキュラムおよび単元的事例研究を行う。上記の各教科等のカリキュラムと単元的事例研究から、カリキュラム及び単元の現在の課題を抽出し、モデル的なカリキュラムおよび単元の開発に向けた知見の整理を行う。課題別教科等カリキュラム・単元のモデル開発として、事例研究から抽出されたカリキュラムおよび単元開発に向けた課題別グループを編成し、それらの課題を克服する教科等カリキュラムおよび単元のモデル開発を行う。開発された教科等のモデルカリキュラム及び単元についてプレゼンテーションを行い、事例研究から抽出されたカリキュラム及び単元の課題の克服方策について討論する。</p> |   |      |
| 授業実践リダイレクト | 専門科目 | <p>高度な授業実践における授業の設計、展開、分析・評価及びその改善<br/>(Lesson Planning, Execution, Analysis, and Evaluation for Advanced Teaching Practice)</p>   | <p>(概要)<br/>この科目のねらいは、児童・生徒の成長・発達と創造的な学力を保障する高度な授業実践における模範的卓越した指導技術を遂行できるための授業設計の方法、授業展開の方法、授業分析の方法、授業評価の方法、授業改善の方法を理解し、高度な授業実践の計画的・組織的な実践力を培うことにある。この科目ねらいを達成するため、前半の3回まで授業実践の高度化の視点から諸理論の再考を行い、それを受けて第4回目で科目担当の専任教員全員によるパネルディスカッションを行い授業実践研究の方向性をつかませる。さらに、第5回～第15回では前半の理論的考察</p> | 共同方式 |



|             |      |   |  |
|-------------|------|---|--|
|             |      | <p>をもとに各自がテーマに沿って授業設計、模擬授業、授業分析・評価の演習を行う。なお、この演習の前半では各自が教科等にわかれ、その専門教員の指導のもとで授業設計と授業評価の方法について計画を立てる。</p> <p>(共同方式／全15回)</p> <p>(14 松本伸示／13回)<br/>科目全体のコーディネーターとして授業全体を統括する。また、理科教育の専門教員として受講者が設定した研究課題に従って高度な授業実践に向けた授業設計とその授業評価について理論的、実践的指導を行う。</p> <p>(16 佐藤真／10回)<br/>高度な授業実践について教育方法論の立場から本科目の理論的側面を担う。また、総合的な学習の時間の専門教員として受講者が設定した研究課題に従って高度な授業実践に向けた授業設計とその授業評価についての理論的、実践的指導を行う。</p> <p>(19 黒岩督／2回)<br/>高度な授業実践について学習論の立場から本科目の理論的側面を担う。</p> <p>(20 吉水裕也／10回)<br/>高度な授業実践について授業論の立場から本科目の理論的側面を担う。また、社会科教育の専門教員として受講者が設定した研究課題に従って高度な授業実践に向けた授業設計とその授業評価についての理論的、実践的指導を行う。</p> <p>(21 森山潤／10回)<br/>高度な授業実践について情報処理論の立場から本科目の理論的側面を担う。また、技術科教育の専門教員として受講者が設定した研究課題に従って高度な授業実践に向けた授業設計とその授業評価についての理論的、実践的指導を行う。</p> <p>(22 永田智子／10回)<br/>高度な授業実践について教育工学論の立場から本科目の理論的側面を担う。また、家庭科教育の専門教員として受講者が設定した研究課題に従って高度な授業実践に向けた授業設計とその授業評価についての理論的、実践的指導を行う。</p> | <p>[各教科等協力専門教員]</p> <p>兼任 堀江祐爾<br/>兼任 吉田達弘<br/>兼任 崎谷真也<br/>兼任 竹内俊一<br/>兼任 福本謹一<br/>兼任 高田俊也<br/>兼任 梅田規誉</p> |
| 授業実践リーダーコース | 専門科目 | <p>素材研究と教材開発に関する理論及び方法・技術<br/>(Research on Original Materials and Development of Teaching Materials : Principles, Methods, and Techniques)</p> <p>(概要)<br/>素材研究と教材開発に関する理論及び方法・技術を学び、受講者各自が実際に課題を設定し、素材研究・教材開発ができる力を養うことを目的とする。全15回の内、第5回～第12回は希望する教科・領域等にわかれ、モジュールAおよびモジュールBの単位で計2つの教材を研究・開発する。最後に、各自がまとめた教材について、開発した教材の目的・内容と素材研究から教材開発にいたる過程を発表し、質疑応答・相互評価を行うことを通して、実践的な教材開発力を養う。</p> <p>(共同方式／全15回)</p> <p>(12 増澤康男／13回)<br/>本授業を総括するとともに、総合的な学習の時間及び関連教科における食育・環境・健康に関わる素材研究とその教材化についての講義・演習を担当する。はじめに、総合学習・食育・環境教育・健康教育の授業目的・目標の設定の方法とその目的・目標に合致した教材をいくつか提示</p>   | 共同方式   |

し、各教材が素材のどのような側面を切り取って開発されたものであるかを解説する。演習においては、総合学習や食育・環境教育・健康教育の授業目的・目標に合致した素材の選択とその性質・性格の調査・研究、さらには素材研究から教材開発にいたるプロセスの全般を指導・評価する。

(10 山口 修／13回)

生物・生態系に関わる素材研究とその教材化についての講義・演習を担当する。はじめに、生物・生態系に関わる授業の目的・目標の設定の方法とその目的・目標に合致した教材をいくつか提示し、各教材が素材のどのような側面を切り取って開発されたものであるかを解説する。演習においては、食育・環境教育・健康教育の授業目的・目標に合致した素材の選択とその性質・性格の調査・研究、さらには素材研究から教材開発にいたるプロセスの全般を指導・評価する。

(11 上西一郎／13回)

電気・エネルギー・気象等に関わる素材研究とその教材化についての講義・演習を担当する。はじめに、電気・エネルギー・気象等に関わる授業の目的・目標の設定の方法とその目的・目標に合致した教材をいくつか提示し、各教材が素材のどのような側面を切り取って開発されたものであるかを解説する。演習においては、食育・環境教育・健康教育の授業目的・目標に合致した素材の選択とその性質・性格の調査・研究、さらには素材研究から教材開発にいたるプロセスの全般を指導・評価する。

(兼担 堀江祐爾／4回)

国語に関わる素材研究とその教材化の演習を担当する。国語の授業目的・目標に合致した素材の選択とその性質・性格の調査・研究、さらには素材研究から教材開発にいたるプロセスの全般を指導・評価する。

(兼担 吉田達弘／4回)

英語に関わる素材研究とその教材化の演習を担当する。英語の授業目的・目標に合致した素材の選択とその性質・性格の調査・研究、さらには素材研究から教材開発にいたるプロセスの全般を指導・評価する。

(兼担 南埜 猛／7回)

社会科に関わる素材研究とその教材化の演習を担当する。社会科の授業目的・目標に合致した素材の選択とその性質・性格の調査・研究、さらには素材研究から教材開発にいたるプロセスの全般を指導・評価する。

(兼担 崎谷真也／4回)

算数・数学に関わる素材研究とその教材化の演習を担当する。算数・数学の授業目的・目標に合致した素材の選択とその性質・性格の調査・研究、さらには素材研究から教材開発にいたるプロセスの全般を指導・評価する。

(兼担 渥美茂明／4回)

理科に関わる素材研究とその教材化の演習を担当する。理科の授業目的・目標に合致した素材の選択とその性質・性格の調査・研究、さらには素材研究から教材開発にいたるプロセスの全般を指導・評価する。

(兼担 竹内俊一／4回)

音楽に関わる素材研究とその教材化の演習を担当する。音楽の授業目的・目標に合致した素材の選択とその性質・性格の調査・研究、さらには素材研究から教材開発にいたるプロセスの全般を指導・評価する。

|            |      |   |      |
|------------|------|---|------|
|            |      | <p>るプロセスの全般を指導・評価する。</p> <p>(兼担 福本謹一／4回)<br/>美術に関わる素材研究とその教材化の演習を担当する。美術の授業目的・目標に合致した素材の選択とその性質・性格の調査・研究、さらには素材研究から教材開発にいたるプロセスの全般を指導・評価する。</p> <p>(兼担 高田俊也／4回)<br/>体育・保健体育に関わる素材研究とその教材化の演習を担当する。体育・保健体育の授業目的・目標に合致した素材の選択とその性質・性格の調査・研究、さらには素材研究から教材開発にいたるプロセスの全般を指導・評価する。</p> <p>(21 森山 潤／4回)<br/>技術科に関わる素材研究とその教材化の演習を担当する。技術科の授業目的・目標に合致した素材の選択とその性質・性格の調査・研究、さらには素材研究から教材開発にいたるプロセスの全般を指導・評価する。</p> <p>(兼担 福田光完／4回)<br/>家庭科に関わる素材研究とその教材化の演習を担当する。家庭科の授業目的・目標に合致した素材の選択とその性質・性格の調査・研究、さらには素材研究から教材開発にいたるプロセスの全般を指導・評価する。</p> <p>(兼担 森廣浩一郎／4回)<br/>情報に関わる素材研究とその教材化の演習を担当する。情報に関わる授業の目的・目標に合致した素材の選択とその性質・性格の調査・研究、さらには素材研究から教材開発にいたるプロセスの全般を指導・評価する。</p> <p>(兼任 梅田規誉／4回)<br/>国語に関わる素材研究とその教材化の演習を担当する。国語の授業目的・目標に合致した素材の選択とその性質・性格の調査・研究、さらには素材研究から教材開発にいたるプロセスの全般を指導・評価する。</p> |      |
| 授業実践ガイドコース | 専門科目 | <p>教育実践課題解決研究<br/>(Research and Seminar on the Resolution of Practical Problems in Education)</p> <p>(概要)<br/>本演習では、現代的な教育実践課題をとりあげ、学生と教員とが一緒に調査、研究活動を行い成果を出していくプロジェクト方式の学習展開をとる。学生の希望により5～6のプロジェクトを立ち上げ、共同で研究、調査、授業設計を行い、半期毎に一定の成果をまとめて締めくくる。学習の過程で、学生は、課題発見、仮説設定、仮説検証、結果のまとめ方、プレゼンテーション技術等を習得し、教育実践課題への取り組み全体を体得する。このプロジェクトを4回繰り返し、2年次後期には学会発表が出来るレベルまで研究を深めることをねらいとする。</p> <p>(共同方式／全15回を各期〔前期、後期〕ごとに開講)</p> <p>(17 岩田一彦／15回)<br/>本授業を総括するとともに、授業構成に関するプロジェクトにおいて、社会科授業構成理論研究の成果に基づいて、理論的な指導と助言を行う。</p> <p>(10 山口修／15回)<br/>子ども理解に関するプロジェクトにおいて、理科教育内容学研究の成果に基づいて、理論的な指導と助言を行う。</p>  | 共同方式 |

(11 上西一郎／15回)

教科カリキュラムに関するプロジェクトにおいて、理科教育研究の成果に基づいて、理論的・実践的な指導と助言を行う。

(12 増澤康男／15回)

教材構造化に関するプロジェクトにおいて、理科教育内容学研究的成果に基づいて、理論的な指導と助言を行う。

(13 長澤憲保／15回)

子ども理解に関するプロジェクトにおいて、教育方法学研究の成果に基づいて、理論的・実践的な指導と助言を行う。

(14 松本伸示／15回)

教科カリキュラムに関するプロジェクトにおいて、科学教育の研究成果に基づいて、理論的な指導と助言を行う。

(15 米田豊／15回)

授業構成に関するプロジェクトにおいて、社会科授業構成理論研究の成果に基づいて、理論的・実践的な指導と助言を行う。

(16 佐藤真／15回)

評価に関するプロジェクトにおいて、教育方法学研究の成果に基づいて、理論的・実践的な指導と助言を行う。

(18 天根哲治／15回)

子ども理解に関するプロジェクトにおいて、授業の心理学的研究の成果に基づいて、理論的な指導と助言を行う。

(19 黒岩督／15回)

教材構造化に関するプロジェクトにおいて、学習心理学研究の成果に基づいて、理論的な指導と助言を行う。

(20 吉水裕也／15回)

授業構成に関するプロジェクトにおいて、社会科授業構成理論研究の成果に基づいて、理論的・実践的な指導と助言を行う。

(21 森山潤／15回)

教科カリキュラムに関するプロジェクトにおいて、技術科教育研究の成果に基づいて、理論的・実践的な指導と助言を行う。

(22 永田智子／15回)

評価に関するプロジェクトにおいて、教育工学および家庭科教育研究の成果に基づいて、理論的な指導と助言を行う。

(23 伊藤博之／15回)

評価に関するプロジェクトにおいて、教育方法学研究の成果に基づいて、理論的な指導と助言を行う。

(兼任 山下 裕, 兼任 丹羽孝昭, 兼任 松田博康, 兼任 祇園全禄／1回)

各期〔前期, 後期〕の最後の成果発表会に参加し、それぞれのプロジェクトに対し、指導と助言を行う。

特に、実習科目に関連するプロジェクトには個別指導を行う。

|             |      |   |   |  |
|-------------|------|---|---|--|
| 授業実践リーダーコース | 実習科目 | メンタリング実習<br>(Mentoring Training)  | <p>(概要)</p> <p>「教員養成・研修におけるメンターシップに関する分野」科目の学修を通して、優れた実践的指導力を備え、同僚や若年教員に対して指導的役割を果たし得るメンター教員として、学校教育の抱える多様な諸問題に対して積極的な実践改革に取り組む同僚や若年教員にメンターシップを発揮できる資質能力の基礎を育成する。</p> <p>○附属学校での学部学生への教育実習指導に取り組む附属学校教員(メンター)の指導・助言のあり方を観察する。</p> <p>○教育研修所の教員研修生への研修指導に取り組む研修担当指導主事(メンター)の指導・助言のあり方を観察する。</p> <p>○観察成果に基づいて、教員養成・研修メンタリングの要点を考察し、優れたメンターシップの基礎的資質能力を育成する。</p>  |  |
| 授業実践リーダーコース | 実習科目 | 教育実践研究開発プロジェクト実習<br>(Project Field Research to Develop Educational Practices) | <p>(概要)</p> <p>本実習は、連携学校の教育プロジェクトに参加し、共同研究を推進する形で行う。4週間の共同研究に参加することを通して、研究課題や研究仮説の設定、研究計画の策定、研究推進の方略や具体的な研究活動の展開、諸課題の取りまとめ、発表、総括にいたるまでの実習を行う。</p> <p>本実習の事前、事後の指導は、大学教員と連携学校のメンターが行う。</p> <p>したがって、実習に参加する専任教員は、学生の研究課題に対応した担当教員(「教育実践課題解決研究」の指導教員)である。</p> <p>また、各地域に非常勤講師を配置して現任校での実習の指導を行う。非常勤講師は、「教育実践課題解決研究」の適切な時期に参加し、学生の研究課題を十分把握した上で実習の指導に臨む。</p> <p>連携学校の教育プロジェクトの選定に当たっては、共同研究を行う視点を重視して、学生の「教育実践課題解決研究」(専門科目)における研究課題とマッチングさせて行う。</p>  |  |
| 授業実践リーダーコース | 実習科目 | 教育実践改善研究実習<br>(Field Research to Improve Educational Practices)               | <p>(概要)</p> <p>本実習は、連携学校の教育プロジェクトに参加し、共同研究を推進する形で行う。「教育実践研究開発プロジェクト実習」をふまえて「教育実践課題解決研究」の研究課題をより深め、探究的な研究活動のための実習とする。教育実践に有効な研究成果を挙げるため、教材開発や授業構成などの理論と実践の結合を図ることをねらいとする。また、授業づくりの典型的な研究方法やレポート作成法を実践的に学ぶこともねらいとする。</p> <p>本実習の事前、事後の指導は、大学教員と連携学校のメンターが行う。したがって、実習に参加する専任教員は、学生の研究課題に対応した担当教員(「教育実践課題解決研究」の指導教員)である。また、各地域に非常勤講師を配置して現任校での実習の指導を行う。非常勤講師は、「教育実践課題解決研究」の適切な時期に参加し、学生の研究課題を十分把握した上で実習の指導に臨む。</p> <p>連携学校の教育プロジェクトの選定に当たっては、共同研究を行う視点を重視して、学生の「教育実践課題解決研究」(専門科目)における研究課題とマッチングさせて行う。</p> |  |

| 授 業 科 目 の 概 要<br>(学校教育研究科教育実践高度化専攻) |  |   |      |
|-------------------------------------|--|---|------|
| 科目<br>区分                            | 授業科目の名称  | 講義等の内容  | 備考   |
| 心の<br>教育<br>実践<br>コー<br>ース          | 専<br>門<br>科<br>目<br><br>道徳教育及び道徳<br>授業の理論と実際<br>(Theory and<br>Practice in<br>Moral Education<br>and Moral<br>Teaching)                | <p>(概要)</p> <p>本授業は、近代社会（現代社会を含む）における道徳と道徳教育の基本的な意義と諸課題について、歴史的、哲学的、社会学的、心理学的及び教育学的な諸観点から検討し、その上で学校の教育活動の全体において行われる道徳教育と「道徳の時間」に行われる道徳教育の諸理論とそれらに基づく道徳授業の実際について、授業事例に則しながら各々の意義と課題の検討を行う。</p> <p>(共同方式／全15回)</p> <p>(24 渡邊満／15回)</p> <p>本授業を統括するとともに、主として歴史的、哲学的、社会学的、心理学的および教育学的な諸観点から道徳教育および道徳授業の理論的課題について検討し、「討議」による道徳授業に関して理論的な課題を明らかにする。</p> <p>(32 淀澤勝治／15回)</p> <p>学校教育の中で展開されている道徳の時間の道徳授業の諸事例を整理し、それらの特徴と課題について明らかにする。</p> <p>(29 小寺正一／15回)</p> <p>現代社会における家庭や地域そして子どもたちの具体的・実的な諸課題の検討を通して、学校における道徳教育および道徳授業の実践的課題を検討する。我が国の学校における道徳教育の基本方針は、昭和33年以来学習指導要領において規定されてきたが、その展開過程についてその意義と課題を検討する。</p> <p>(兼任 大嶋澄子／3回)</p> <p>学校における道徳教育および道徳授業の実際について講述し、学校における児童生徒の諸課題に対応する道徳授業の実践の課題と実際について、授業事例を示しながら明らかにする。特に、「討議」を活用した実践を提示し、その方法について具体的実的な理解が得られるようにする。</p> | 共同方式 |
| 心の<br>教育<br>実践<br>コー<br>ース          | 専<br>門<br>科<br>目<br><br>道徳授業の教材及<br>び指導過程の実践<br>開発<br>(Practical<br>Development of<br>Materials and<br>Processes of<br>Moral Teaching) | <p>(概要)</p> <p>本授業は、「心の教育」としての道徳教育の諸課題（心に響く道徳教育）に対応することのできる道徳授業の課題を明らかにし、その課題に対応する道徳授業の教材および指導過程を具体的に構想し開発して、心に響く道徳教育の実践的プログラムとしての実践的効果を検証する。</p> <p>(共同方式／全15回)</p> <p>(24 渡邊満／15回)</p> <p>授業全体を統括するとともに、道徳授業の教材開発と指導過程の開発に関する理論的な諸課題について明らかにし、院生各自が明確な理解が得られるよう配慮しながら指導を行う。</p>   | 共同方式 |

|           |      |   |   |
|-----------|------|---|---|
|           |      | <p>(32 淀澤勝治／15回)<br/>         道徳授業の教材開発と指導過程の開発に関する実践的な諸課題について明らかにしながら、院生各自が行う開発作業の円滑な展開がはかられるよう配慮しながら指導を行う。また、実践的効果の検証の具体的な方法について指導を行う。</p> <p>(29 小寺正一／15回)<br/>         主として学習指導要領に規定する道徳の内容項目を中心に置きながら、また、家庭や地域との連携も踏まえながら教材開発および指導過程の開発を指導する。</p> <p>(兼任 早田恵美／2回)<br/>         「心の教育」としての道徳教育の諸課題に対応する道徳授業の教材および指導過程を具体的に構想し開発する力量を育てるために、学校における先進的な事例を紹介し、教材開発と指導過程開発に関する実践的課題について実際的な理解が得られるよう指導を行う。</p>   |   |
| 心の教育実践コース | 専門科目 | <p>キャリア教育実践プログラムの開発<br/>         (Program Development for Career Education)</p> <p>(概要)<br/>         小学校から高等学校におけるキャリア教育に関する理論と実践について学習し、実践的なプログラムを開発する知識・技能を習得する。学習にあたっては、先進的な学校の視察、事例検討など、学校現場に即した体験的・実践的要素、および討論などの参加型授業の要素を含むことにより、受講生の参加意識を高めるとともに、実践と体験に即した内容を学習する。最終的に、学校での実践と効果測定について実施計画を作成する。</p> <p>(共同方式／全15回)</p> <p>(26 古川雅文／15回(昼間・夜間))<br/>         授業全体を統括するとともに、キャリア教育の概説、国内外の理論、教育効果の測定評価について主として担当する。また、高等学校の事例紹介とワークショップ形式でのプログラム開発を指導し、学校等の視察、事例検討会、発表会などに関する実施の調整を行う。</p> <p>(① ヤギ・ダリル・タキゾウ／4回(昼間・夜間))<br/>         米国におけるキャリア教育およびキャリアカウンセリングの実態、先進的なプログラム、教材等について概説、検討する。また、米国におけるキャリアカウンセラーの役割についても紹介する。</p> <p>(兼任 角野綾子／5回(昼間・夜間))<br/>         キャリア教育について先進的な取り組みを行っているNPOについて紹介し、そうした事例を視察するための企画、運営、指導を行う。また、事例検討発表会やキャリア教育プログラムの発表会に出席し、アドバイス等の指導を行う。</p> <p>(兼任 住本克彦／5回(昼間・夜間))<br/>         キャリア教育について先進的な取り組みを行っている小・中学校について紹介し、そうした事例を視察するための企画、運営、指導を行う。また、事例検討発表会やキャリア教育プログラムの発表会に出席し、アドバイス等の指導を行う。〔夜間については、中学校に関する取組紹介等は、中尾豊喜が担当する。〕</p> <p>(兼任 中尾豊喜／5回(夜間))<br/>         キャリア教育について先進的な取り組みを行っている中学校について紹介し、そうした事例を視察するための企画、運営、指導を行う。また、事例検討発表会やキャリア教育プログラムの発表会に出席し、アドバイス等の指導を行う。</p> | <p>共同方式<br/>         [昼間と夜間の担当者が一部異なる。]</p> |

|           |      |  |   |      |
|-----------|------|--|---|------|
|           |      |  | <p>(兼任 山崎裕正／6回(昼間・夜間))</p> <p>キャリア教育について先進的な取り組みを行っている民間企業について紹介し、そうした事例を視察するための企画、運営、指導を行う。加えて、キャリア教育プログラムや教材の開発の基礎について概説する。また、事例検討発表会やキャリア教育プログラムの発表会に出席し、アドバイス等の指導を行う。</p>   |      |
| 心の教育実践コース | 専門科目 | <p>教育相談の理論と技能開発<br/>(Theory and Skill Development in School Counseling)</p>                                    | <p>(概要)</p> <p>本授業は、学校教育現場で教師がかかわる教育相談の実際について、心理相談との関連を整理しつつ、実践力を養うことを目的とし、学校における教育相談の必要性を整理し、教師として教育相談に関わる際の技能を開発することを目標とする。そのために、ディスカッション、ロールプレイ、グループワークなどを通じた実習を行う。</p> <p>(共同方式／全15回)</p> <p>(30 松本剛／15回)</p> <p>授業全体を統括するとともに、第1回でカウンセラー模擬体験の録音(録画)と逐語録作成の目的を提示し、それらをもとにしたカウンセリング・プロセスを検討し、教師カウンセラーとしての自分自身のかかわりをふりかえる実習の指導を行う。</p> <p>(34 隈元みちる／12回)</p> <p>本授業の検査所見の読み取りに関する演習を担当する。教育者として心理査定スコアを正しく読み取り、それを安全に教育活動に活用しうる技能を開発するための体験学習を担当する。また、カウンセラー模擬体験の録音(録画)と逐語録作成をもとにしたカウンセリング・プロセスを検討し、教師カウンセラーとしての自分自身のかかわりをふりかえる実習の指導を行う。</p> <p>(兼任 秋光恵子／9回)</p> <p>本授業において、グループが話し合いながら事例を作成し、その事例への教育相談援助のありかたを模索する演習を担当する。</p> <p>(① ヤギ・ダリル・タキゾウ／2回)</p> <p>アメリカのスクール・カウンセラーの役割などを学び、教師が学校においてはすべき教育相談のありかたをグループワークによってまとめ、発表しあい、それらを検討する演習を担当する。</p> <p>(兼任 住本克彦／1回)</p> <p>適応指導教室等における実習に向けてのガイダンスと実習に向けての話し合いのコーディネートを行う。</p> | 共同方式 |
| 心の教育実践コース | 専門科目 | <p>生徒指導のための協働的指導体制の事例研究<br/>(Case study on Collaborative Organization for Student Guidance and Counseling)</p> | <p>(概要)</p> <p>不登校、いじめ、校内暴力といった今日的教育問題の解決に向けて、生徒指導が担う役割や課題について検討する。とりわけ、学校内における教師間の協働体制の構築および地域や専門機関との連携の意義や方法についての考察を中心とする。</p> <p>そのために、学校心理学やコミュニティ心理学の理論を紹介するとともに、具体的な事例を取りあげ、協働的生徒指導体制を構築するための実践的方法について考えていく。問題によっては小集団での事例演習やロールプレイなど参加型の授業を行い、受講者の生徒指導のための実践力の向上をめざす。</p> <p>(共同方式／全15回)</p>   | 共同方式 |



|           |      |  |  |
|-----------|------|--|--|
|           |      | <p>(25 新井肇／13回)<br/> 授業全体を統括するとともに、児童生徒の問題行動の現状や背景、学校における生徒指導上の課題について、受講者との意見交換を中心に検討する。とくに、生徒指導実践における課題解決を、同僚性・協働性の向上やスクールカウンセラーの活用等の校内体制の機能充実の側面から考える。不登校や校内暴力などの具体的事例をとりあげ、協働体制を築くための参加型事例研究法の実習を行う。</p> <p>(兼任 木村慶／3回)<br/> 協働的指導体制の具体化として、チームで生徒を指導・援助するための理論と実践的方法について検討する。いじめなどの具体的な事例をとりあげ、チーム援助についてロールプレイングを通じて学ばせる。</p> <p>(兼任 原田耕一郎／3回)<br/> 学校危機における教師の役割分担や緊急対応の実際、学校外の関係機関との連携などについて、校内事故や自殺、児童虐待などの具体的事例に即したロールプレイングを中心に体験的に学習させる。</p> <p>(兼任 前橋信和／5回)<br/> コミュニティアプローチの理論に基づき、子どもたちを取り巻く文化状況と非行との関連を理解したうえで、学校・親・地域・関係機関が連携した生徒指導のネットワークづくりについて、万引きや薬物乱用などの具体的事例をとりあげ、意見交換しながら検討を加える。</p> <p>(担当教員全員／2回)<br/> 小・中・高それぞれの実情に合わせた具体的事例をとりあげ、生徒指導を支える学校内外の連携に基づく協働的指導体制のモデルを構築する。そのモデルに基づいた事例演習(シミュレーション)を行い、問題行動の解決を図るための協働的指導体制構築に関する実践的指導力の向上をめざす。</p> |  |
| 心の教育実践コース | 専門科目 | <p>円滑な学級経営のための力量形成<br/> (Faculty Development for Classroom Management)</p> <p>(概要)<br/> 円滑な学級経営を行うために必要となる(主に、心理学的な研究をベースにした)知識・考え方を教示するとともに、日々の授業・学級内の諸活動・学校行事などを通じた学級づくり、教師と児童生徒の人間関係づくり、児童生徒同士の友人関係づくりを促す働きかけ、などに関する具体的な実践を授業者が提示したり、各受講者のこれまでの実践を提示しあったりしたうえで、それらの実践の妥当性や意義、問題点などについて討論し、より有用かつ適用可能な洗練された実践を受講者とともに構築していく。また、各受講者がこれまでに経験した学級経営上の問題事象に関して、それぞれの問題事象への対応・介入の適切さ・妥当性などについて討論し、より有用な実践の在り方を検討していく。</p> <p>(共同方式／全15回)</p> <p>(33 山中一英／15回)<br/> 授業全体を統括するとともに、15回全ての授業にかかわるため、山中担当分については全体の概要と同様である。</p> <p>(兼任 福井景子／7回)<br/> 現職教員としての経験に基づいて、教室内の掲示・展示、清掃といった教室の環境づくり、日々の授業、学級内の諸活動(朝の会と帰りの会・係り活動など)ならびに学校行事(運動会や文化祭など)を通じた学級づくりに関する実践について、実践内容の詳細や実践上の留意点などを提示</p>  | <p>共同方式<br/> (7回を非常勤の実務家教員が中心になって授業を行う。専任教員である山中は、上記の7回の授業にもコーディネーター的な役割で関わる。)</p> |

|           |      |  |   |   |
|-----------|------|--|---|---|
|           |      |  | <p>する。そして、専任教員である山中も加わって、それらの実践の意義や問題点・改善点などについて討論する。</p>   |   |
| 心の教育実践コース | 専門科目 | 人間関係に関わる諸問題への予防・介入策開発<br>(Program Development for Intervention and Prevention of Interpersonal Problems) | <p>(概要)<br/>いじめ、「キレる」という言葉で表現されているような衝動的・攻撃的対人行動、自閉的敵意、排他的小集団の形成、自己主張の欠如などの人間関係上の諸問題に対して予防ないし介入するための実践である「心のしくみについての教育」と「ソーシャルスキル教育・アサーショントレーニング」などに関する知識を事前の文献講読や講義を通して獲得してもらう。そして、主に「グループ発表→質疑・批評→討論」という形態で授業を展開しながら、上記の2つの実践の意義や問題点などについて吟味し、より有効かつ適用可能な洗練された実践を受講者とともに構築していく。</p> <p>(共同方式/全15回)</p> <p>(27 吉田寿夫/15回)<br/>授業全体を統括するとともに、15回の全ての授業に関わるため、吉田担当分については全体の概要と同様である。</p> <p>(兼任 住本克彦/2回)<br/>自身の「ソーシャルスキル教育」の実践について、実践内容の詳細や実践上の留意点、実践を作り上げていく過程などを中心に講義する。そして、その後、専任教員である吉田も加わって、「ソーシャルスキル教育」の意義や実践内容の問題点・改善点などについて討論する。</p>         | <p>共同方式<br/>(第9回と第10回の2回分のみ、非常勤の実務家教員が中心になって授業を行う。そして、専任教員である吉田は、残りの13回の授業を単独で行うとともに、上記の2回の授業にもコーディネーター的な役割で関わる。)</p> |
| 心の教育実践コース | 専門科目 | 家庭教育支援の実際<br>(Case Study on Family Support in School)  | <p>(概要)<br/>学校で、何かしら問題が生じ、その根が家庭にあると想定されるとき、教師として、それをいかに理解し、どのような手立てが取れるのか。本授業では、家庭教育に関わる発達臨床の知見を学ばせると共に、学校での具体的な支援事例を紹介し検討する。さらに、受講者に家庭教育支援の在り方について提案発表を行ってもらい、議論を深め、家庭教育支援が持つ児童生徒の「心の教育」に対する諸課題を明確にし、併せて適切な支援の実際を学ばせる。</p> <p>(共同方式/全15回)</p> <p>(兼任 石野秀明/15回)<br/>授業全体を統括するとともに、まず受講者自身が直面してきた事例についてケースレポートを提出してもらう。そして、それらの事例において児童生徒のなかで何が生じているのか、発達臨床の知見から導いた4つのキーワードに基づき理解を深めさせる。</p> <p>(兼任 五百蔵佳世子/10回)<br/>カウンセラーの立場で、学校での問題について考える時、お互いの関係性の中で生じた思い込みや誤解が問題を複雑にしている場合が多い。こじれた関係性の背後に潜む個人の育ちや現在の家庭環境の影響を考慮しつつ、児童生徒の心的発達を核にした支援方法を探らせる。</p> | <p>共同方式</p>   |
| 心の教育実践コース | 専門科目 | 地域教育活動プログラムの開発<br>(Program Development for Educational Community Activities)                             | <p>(概要)<br/>「心の教育」は学校のなかだけでは十分に成果を上げることは難しい。学校における心の教育にとって、家庭教育と並んで、地域教育活動が果たす意義は大きい。そのことを踏まえ、本授業では、就学前、初等教育及び中等教育の学齢期を対象とする地域教育活動の実際と活動プログラムの開発について実践的な学習を行う。具体的には、特に社会教育及び社会体育の領域に焦点を置いて、学校における</p>   | <p>共同方式</p>   |

|           |      |   |   |      |
|-----------|------|---|---|------|
|           |      |   | <p>体験活動等による心の教育の取組と連携しながら、地域において多様に展開されている地域教育活動の実践的なプログラムを計画・立案・作成する知識及び技能など実践的な力量の習得をめざす。</p> <p>学習にあたっては、可能な限り県立社会教育関連施設における事例研究と実際の事業への参画(フィールドワーク)などを通じて実践的・体験的な学習を行うことによって、実際的な理解と実践的技量の獲得を図る。</p> <p>(共同方式/全15回)</p> <p>(31 安原一樹/15回)</p> <p>本授業を統括する。まず、生涯学習体系のなかでの社会教育・社会体育の意義と役割について受講者が正確で最新の動向についての知識や理解を獲得するよう指導を行う。受講者は、それを踏まえて地域教育活動の実際を多様な地域教育活動への参加を通して学び、その基盤の上で、地域教育活動プログラム開発を行う。その際、学校における「心の教育」の取組との関連を意識化しながら、具体的な実践プログラムの開発が行えるよう配慮する。</p> <p>(兼担 森田啓之/5回)</p> <p>まず、生涯学習体系のなかでの社会教育・社会体育の意義と役割について正確で最新の動向についての知識と理解が得られるよう指導を行う。その上で、特に地域における社会体育に関する多様な取組の実際を参加(フィールドワーク)を通して学ぶことができるよう学習活動を工夫する。最終的には、受講者各自が具体的な実践プログラムを開発し、その成果を評価することができるまで指導を行う。</p> <p>(兼任 栗木剛/5回)</p> <p>社会教育の現場において長年実践の取組を行っている実務家であり、フィールドワークにおいて具体的な指導を行うと共に、プログラム開発の指導にも参加し、より具体的に実践的なプログラム開発が行えるようきめ細かな指導を行う。</p> <p>(兼任 藤原正伸/5回)</p> <p>社会教育の現場において長年実践の取組を行っている実務家であり、フィールドワークにおいて具体的な指導を行うと共に、プログラム開発の指導にも参加し、より具体的に実践的なプログラム開発が行えるようきめ細かな指導を行う。</p> |      |
| 心の教育実践コース | 専門科目 | 心の教育総合研究<br>(General Study on Education for Mind) | <p>(概要)</p> <p>本授業は、共通科目、選択科目及び実習科目を履修することによって各学生が学び、獲得してきた心の教育の諸課題に関わる知見と各院生の「心の教育実践プログラム」を「心の教育総合プラン」へ仕上げていくための科目である。したがって、目標は各院生が「心の教育総合プラン」を作成することである。「心の教育」は、道徳教育、進路指導、生徒指導・教育相談そして学級経営、さらには家庭教育や地域における教育活動などを総合した総合課題であることを踏まえ、各学校の特色や諸課題を踏まえそれらにふさわしい総合プランを作成する。そのために院生を2グループに分け、各グループにおいて指導を行うと共に、中間と最後の2回にわたって全体授業を行う。指導は専任教員全員による演習形式を取り、それぞれの専門的見地から理論的且つ実践的な指導助言を行う。</p> <p>(共同方式/全15回)</p> <p>渡邊満が授業全体を統括する。</p>   | 共同方式 |

|           |      |  |   |               |
|-----------|------|--|---|---------------|
|           |      |  | (専任教員全員、兼任 住本克彦／15回)<br>各院生が各々の「心の教育総合プラン」を作成するのを各教員の専門に応じて教員全員で指導を行う。  |               |
| 心の教育実践コース | 実習科目 | 心の教育実地研究Ⅰ(学校における「心の教育」の実際)<br>(Practice- Studies on Education for Mind I<br>(Participation and Observation on Education for Mind at School)) | (概要)<br>心の教育実地研究Ⅰでは、学校における「心の教育」の実際について、観察、指導補助などとおして、実践的、体験的に学習することを目的としている。具体的には、道徳教育、進路指導、生徒指導・教育相談、学級経営、特別活動、家庭や地域との連携等の実際について参加体験を通して学習する。実習に際しては連携協力校などとの合意の基に、適切な時期に実施する。なお、実習中の指導に際しては、実習校でのメンター教員の指導を受けると共に、大学よりアカデミック教員1名、実務家教員1名が適宜指導に当たることとする。<br>(期間)<br>5月に事前学習(個別実習計画)として、半日実習(4時間)を2回(8時間)、9月中に集中2週間(80時間)、及び10月上旬～12月下旬の間に毎週1回の半日実習を7回(28時間)履修する。最後に、大学において、実習成果発表会を開催する(4時間)。4単位(120時間)を基本とする。<br>(32 淀澤勝治が全体を統括する。)                              | 専任教員全員による共同方式 |
| 心の教育実践コース | 実習科目 | 心の教育実地研究Ⅱ(アクション・リサーチ)<br>(Practice- Studies on Education for MindⅡ<br>(Action Research))   | (概要)<br>心の教育実地研究Ⅱでは、「心の教育」の具体的な内容を開発し、それを実施する力量を、学校現場における実践を通して育成する。授業において学んだ理論的枠組みやそれを基盤に開発した「心の教育実践プログラム」を学校現場の教育の実際に適用していくことにより、「心の教育」の実践的な力量を向上させることを目的としている。実習は連携協力校などとの合意の基に、適切な時期に実施する。なお、実習中の指導に際しては、実習校でのメンター教員の指導を受けると共に、大学よりアカデミック教員1名、実務家教員1名が適宜指導に当たることとする。<br>(期間)<br>6月に集中1週間(40時間)で、実習校の「心の教育」の実態を把握し、後期に行う教育実践の実施計画を立案する。また、11月に2週間(80時間)で、「心の教育」に関する教育実践を行う。なお、これらの実習の最終日には、大学において、実習成果発表会を行う(4時間)。4単位(120時間)を基本とする。<br>(30 松本剛と32 淀澤勝治が全体を統括する。) | 専任教員全員による共同方式 |
| 心の教育実践コース | 実習科目 | 心の教育実地研究Ⅲ(ケースカンファレンス)<br>(Practice- Studies on Education for MindⅢ<br>(Case Conference))   | (概要)<br>心の教育実地研究Ⅲでは、連携協力校、適応指導教室などの施設における生徒指導(協働的指導体制含む)・教育相談の実践をおして、それらの知識と技能を向上させる。原則として10月～1月の4カ月間、適応指導教室や小・中学校のチューター制度等の事業に学校側スタッフとして、企画・運営・管理等に参加する(4時間×10回=40時間)が、連携協力校、適応指導教室などの施設との合意の下に、適切な時期に実施するものとする。実習生に、心の教育実地研究を通して①学校における「心の教育」に関する実践的知識・技能、②「心の教育」の授業課程(またはプログラム)を構成、評価、改善する力、③「心の教育」の教材開発を行い、授業実践を評価、改善する力、④教育相談、生徒指導を実践する力、教育実践を研究推進する力を身につける。<br>事前の指導として、① 自己の研究課題を明確化、連携協力校の研究課題や実践研究事例、指導実践事例の事前研究② 講義において、心の教育実地研究Ⅲの意義・内容を                  | 専任教員全員による共同方式 |

紹介, ③ 実習先を決定する過程において, 実習の意味, 実習先への貢献について検討, ④ 指導教員 (メンター) と大学教員の指導を受け, 実習の個別計画を策定, を行う。

実習中は, ①【適応指導教室】スタッフの一員として, 児童生徒を指導, または【連携協力校】放課後指導, 別室登校生への教員との協働的指導, ②大学において実習に関するスーパービジョン・事例検討, を行う。

実習後には, 実習で学んだことの発表を大学で行う (4時間)。

(実習先指導教員) 実習開始前, 実習担当教員, アカデミック・アドバイザーとともに実習生に対して個別計画作成に関して援助・指導する。実習中, 実習担当教員, アカデミック・アドバイザーと緊密に連携し, 協議しながら実習生を指導する。実習生が作成した実習日誌の内容を点検する。実習終了後, メンターは, 実習担当教員, アカデミック・アドバイザーと協議しながら成果の評価を行う。

(専任教員全員) 各教員の専門に応じて教員全員で指導を行う。実習担当主任教員を2名程度置く (実務家教員)。主任教員は, 実習全体の企画, 運営にあたり, 実習生のスーパーバイザーの役割も果たす。実習担当主任教員以外の心の教育実践コース専任教員は, アカデミック・アドバイザーとして, 主としてチューターをしている学生の指導にあたる。

(30 松本剛が実習担当主任教員を務める。)

| 授 業 科 目 の 概 要<br>(学校教育研究科教育実践高度化専攻)                      |   |  |      |
|--|---|--|------|
| 科目<br>区分   | 授業科目の名称   | 講義等の内容   | 備考   |
| 小<br>学<br>校<br>教<br>員<br>養<br>成<br>特<br>別<br>コ<br>ー<br>ス | 専<br>門<br>科<br>目<br><br>学級づくりと教育的関係の構築<br>(Classroom Management and Construction of Educational Relation) | <p>(概要)</p> <p>学級で教える小学校の教育活動では、授業づくりと学級づくりを統一的に運営する学級経営のあり方がきわめて重要である。特に、教師と児童、児童相互がともに信頼し合える関係づくりは、より豊かな教育的関係を構築していく基盤である。そこで、この授業では、①学級経営の目的・内容・方法、②児童の実態把握と児童理解の方法、③自主的・民主的な学級づくり・人間関係づくり、④保護者や地域社会、同僚等との連携・協力づくりを中心に、今日的な実践課題にも触れながら、教育的関係構築のあり方を実践的に探求し、学級経営に関する体系的な理解と実践的な方法・技術を学び、主体的な構えを培う。</p> <p>(共同方式/全15回)</p> <p>(13 長澤憲保/11回)</p> <p>社会環境・家庭環境の変化、児童の育ちの変化によって、学級観や授業観が大きく揺らぐ今日こそ、児童1人ひとりを学習と生活の「主人公」に育む確かな学級観と授業づくり、学級づくりへの豊かな構想力が必要である。また、個々の学級担任の意欲や努力をいかに学年経営、学校経営に結びつけ、協働し合う関係を構築し、教育力を結集するかが、個々の学級経営にも大きな影響力を持つ。「抱え込まない」「投げ出さない」学級経営を考えると、1人ひとりの児童を大切にす教職員の協働体制づくりが重要である。これらの点から児童1人ひとりの社会性発達の相違、家庭環境や仲間関係の特徴等をも、十分に配慮しながら、学級づくりに取り組む教育の方法・技術及び指導の重点について述べる。</p> <p>(39 吉川芳則/9回)</p> <p>教育実践の場における「学級づくりと教育的関係の構築」の取り組みには、多くの連携・協力を得て、有効な資源を教育活動に導入しうる配慮と方策が必要である。実際の小学校教育現場を支える保護者、地域社会、同僚等との体系的な関係性を理解し、効果的な支援体制を構築しながら、自己のめざす授業づくり、学級づくりを追求していくことが重要である。社会環境、家庭環境の変化、児童の変化、学校システムの変化を織り込みながら、よりよい教育的関係の構築に向けて、学級担任の配慮と取り組みのあり方を実践に即して述べるとともに、本授業全体を総括する。</p> <p>(兼任 丸山隆義/4回)</p> <p>子どもたちを取り巻く教育環境が大きく変化する中で、学校・家庭・地域社会が連携・協力しながら教育活動を展開していくことは不可欠となっている。特別活動や総合的な学習の時間等における地域の人的、物的資源を活用の在り方やPTCA活動の在り方等、開かれた学校づくりを推進していくための要件について、学級づくりや同僚との連携の在り方についての観点を踏まえながら、具体的な事例をもとに考究する。</p> | 共同方式 |

|  |   |   |             |
|--|---|---|-------------|
| <p>小学校<br/>専<br/>門<br/>科<br/>目<br/>教<br/>員<br/>養<br/>成<br/>特<br/>別<br/>コ<br/>ー<br/>ス</p> | <p>特別活動指導と自治的文化的活動の展開<br/>(Development of Extra-Curricular Activities and Autonomous Cultural Activities)</p> | <p>(概要)<br/>この授業では、特別活動の人間形成的意義や教育課程上の役割を理解するとともに、指導事例や教育問題の分析・考察、掲示物やプリントなどの製作、授業観察等を通し、活動を設計する視点や指導・評価についての実践的な力を養う。また、学級経営をめぐる今日的な課題について考えを深める。なお、授業は討議、レポートの作成・発表、製作等を中心に行う。第6回から第8回については3名の担当教員が1回ずつ授業を行うが、他は3名によるチームティーチングとする。</p> <p>(共同方式/全15回)</p> <p>(37 初田隆/13回)<br/>・特別活動の目標や意義、歴史についての理解を担当するとともに、本授業全体を総括する。<br/>資料を基に特別活動の歴史をたどりながら、その目標や意義の変遷について理解するとともに、とりわけ現代における特別活動の必要性について理解を深める。</p> <p>(38 關浩和/13回)<br/>・特別活動の内容と方法についての理解を担当<br/>学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事のそれぞれについて、特に今日性の強いトピックを選び、資料を基に理解を深める。</p> <p>(13 長澤憲保/13回)<br/>・学級集団の理論についての理解を担当<br/>組織論、人間関係論、リーダーシップ論、準拠集団論などを手がかりに事例の分析を行い、学級づくりのあり方について、理解を深める。</p>                                | <p>共同方式</p> |
| <p>小学校<br/>専<br/>門<br/>科<br/>目<br/>教<br/>員<br/>養<br/>成<br/>特<br/>別<br/>コ<br/>ー<br/>ス</p> | <p>教科の授業づくりと授業分析・評価<br/>(Development, Analysis, and Evaluation of Teaching)</p>                               | <p>(概要)<br/>この授業では、実際の学級での具体的な教科・単元に即した授業づくりと授業分析・評価を行うことにより、その理論と方法を習得する。特に、授業づくりの前後に授業観察を行い、具体的な学級と児童の学習状況を踏まえた授業づくりを学ぶことをねらいとする。授業は演習を主体とし、協力校での授業観察と大学での授業を相補的に組み合わせて学習する。その際、班単位で教材研究・模擬授業・授業評価等を行うとともに、個々人が全授業のまとめのレポートを作成する。</p> <p>(共同方式/全15回)<br/>原田智仁が本授業の総括者となり、協力校の状況に応じて、観察可能な教科・単元を3つ程度設定し、各教員の専門分野を活かしながら、1つの教科を教員2人がTTの形で行うことを原則とする。なお、第1回・第2回・第15回は担当教員全員で行う。</p> <p>(36 原田智仁, 35 松下健二, 44 加藤久恵, 兼担 大辻裕彦/3回)<br/>初めに授業の進め方についてオリエンテーションを行うとともに、いくつかの班を編成させて共同での研究意識を高める。最後に総括を行い、レポートの作成等について全教員で指導する。</p> <p>(36 原田智仁, 44 加藤久恵/4回)<br/>社会科などの内容教科に関する単元について、授業観察を踏まえた授業づくりと授業分析・評価を行う。</p> <p>(44 加藤久恵, 35 松下健二/4回)<br/>算数科などの単元について、授業観察を踏まえた授業づ</p> | <p>共同方式</p> |

|                              |                  |   |  |         |
|------------------------------|------------------|---|--|---------|
|                              |                  |   | <p>くりと授業分析・評価を行う。</p> <p>(35 松下健二, 兼担 大辻裕彦 / 4回)<br/>         体育などの技能教科に関する単元について、授業観察を踏まえた授業づくりと授業分析・評価を行う。</p>   |         |
| 小学校<br>教員<br>養成<br>特別<br>コース | 専<br>門<br>科<br>目 | 道徳教育諸理論と道徳の授業づくり<br>(Theories and Practices of Moral Education and Development of Moral Teaching) | <p>(概要)<br/>         この授業では、道徳教育の意義、現代の道徳授業理論についての理論を深めるとともに、道徳の授業観察や授業設計を通して実践的な指導力を養うことを目標とする。なお、渡邊は主として第1回から9回までを担当し、淀澤は第1回及び第10回から15回までを担当する。</p> <p>(オムニバス方式 / 全15回)</p> <p>(24 渡邊満 / 9回)<br/>         授業の全体を統括するとともに、道徳教育の理論に当たる内容として、まず、学習指導要領の「総則」及び「道徳」の内容について正確な理解が可能となるように、学習指導要領における道徳教育に関する基本的な考え方、道徳教育の目標、内容、配慮事項等について講義しながら、学校現場での現状について学生によるディスカッションを行う。次に、今日の学校現場で行われている道徳授業に関する代表的な道徳授業論を取り上げ、それぞれが持つ意義と課題について理解を深めながら、各自の理論的な水準を高める。</p> <p>(32 淀澤勝治 / 7回)<br/>         道徳の時間の授業づくり、特に授業設計と指導案作成に関しては、指導計画、指導案作成、資料の選択及び開発、指導過程の工夫、授業評価のあり方等について各自が実際に授業づくりを行いながら実践的に学習を進めていく。最後には、作り上げた授業指導案について発表を行い課題等を検討する。</p> | オムニバス方式 |
| 小学校<br>教員<br>養成<br>特別<br>コース | 専<br>門<br>科<br>目 | 総合学習の創造過程と評価法<br>(Development and Evaluation of Integrated Studies)                               | <p>(概要)<br/>         この授業では、総合的学習の立案・実践・評価について、授業観察や先行実践の分析を通して検討し、実践的な指導力を身につけることを目標とする。授業は講義と演習からなり、それぞれ以下の通り分担して行う。</p> <p>(共同方式 / 全15回)</p> <p>(41 鈴木正敏 / 3回)<br/>         本授業全体を総括するとともに、第1回から第3回までを主に担当し、総合的な学習の時間が創設される経緯や社会的背景について講義する。</p> <p>(38 關浩和 / 2回)<br/>         第6回と第7回を主に担当し、総合学習のカリキュラム設計について、学校全体での構想から年間計画・時数設定など具体的に遂行する方法について講義する。</p> <p>(16 佐藤真 / 2回)<br/>         第8回と第9回を主に担当し、他教科との関連性を踏まえた上での学習環境の設定や学習材の選定、評価の方法などを中心に講義する。</p> <p>(担当者全員 / 8回)<br/>         演習においては、担当者全員が担当し、小グループに分けて行う。そこでは協力校での実践を取材し、地域や児童の実態等、周辺の条件を他グループに提示する。他グループはそれをもとに活動計画を構想し、実際例と自分たちの案との比較を通じて、総合学習の計画・実行・評価につい</p>      | 共同方式    |



|                              |                  |   |   |      |
|------------------------------|------------------|---|---|------|
|                              |                  |   | て全体で検討する。   |      |
| 小学校<br>教員<br>養成<br>特別<br>コース | 専<br>門<br>科<br>目 | 生徒指導とキャリア教育の実際<br>(Practical Guidance for Counseling and Career Education)                      | <p>(概要)<br/>この授業では、生徒指導とキャリア教育の実践上の課題について、教育現場の調査・観察を踏まえ問題行動、不登校など具体的事例の検討を通して、実践的指導力を養うことを目標とする。<br/>授業は演習形式を中心に、問題行動・不登校、キャリア教育に係る実践事例の分析を行い、レポートにまとめ発表するとともに、学校現場において、生徒指導、キャリア教育の観点から、授業の取り組み状況等を観察し、指導のあり方について学ぶべき点、参考にすべき点を報告書にまとめ、発表させる。</p> <p>(共同方式／全15回)</p> <p>(39 吉川芳則／7回)<br/>オリエンテーションならびに総括の時間を中心に、生徒指導やキャリア教育の現状について概観するとともに、実践における成果や意義、課題等について講義する。また、学校現場における生徒指導やキャリア教育の実践に係る問題を発見したり課題解決の方途を見出したりするためのフィールドワークの計画作成や、実施の際の引率指導、報告書の作成等についても担当する。また、本授業全体を総括する。</p> <p>(26 古川雅文／7回)<br/>キャリア教育の理論や実践のありようについて、歴史的な観点による整理を行うとともに、特徴的な実践例について検討する中で、キャリア教育の成果や課題、今後の見通し等について講義する。さらに、受講生が取り上げるキャリア教育の事例については、問題状況の解釈や指導のあり方について、実際の現場での対応状況の課題や可能性について言及しながら、分析・検討を行う。</p> <p>(30 松本剛／7回)<br/>問題行動と不登校の問題を中心に取り上げ、生徒指導の現状、課題について、具体的な事例をもとに講義する。また、カウンセリング技法等の対応法についても実際的な観点から留意点等、講義する。さらに、受講生が取り上げる問題行動、不登校に係る事例については、問題状況の解釈や指導のあり方について、実際の現場での対応状況の問題点や可能性について言及しながら、分析・検討を行う。</p> | 共同方式 |
| 小学校<br>教員<br>養成<br>特別<br>コース | 専<br>門<br>科<br>目 | 障害のある児童への指導と支援方法<br>(Method of Teaching and Supporting Children with Special Educational Needs) | <p>(概要)<br/>この授業は協力校やフリースクールでの観察実習、模擬授業を通して、特別支援を要する児童の指導と方法について習得することを目標とする。授業は演習を主体とし、班単位で観察・模擬授業・授業評価等を行う。その経過や結果を個々人でまとめレポートを作成する。</p> <p>(共同方式／全15回)</p> <p>(45 前芝武史／3回)<br/>本授業全体を総括するとともに、第1回の授業実践的立場からの児童理解、第4回・第5回の授業づくりを担当する。</p> <p>(兼担 宇野宏幸／1回)<br/>第2回の心理学的立場からの児童理解を担当する。</p> <p>(兼担 柘植雅義／1回)<br/>第3回の医学的立場からの児童理解を担当する。</p>  | 共同方式 |

|                              |                  |   |  |      |
|------------------------------|------------------|---|--|------|
|                              |                  |   | <p>(担当者全員／10回)</p> <p>第6回～15回は演習形式により、担当者全員が担当する。演習は、協力校において授業づくり、児童の行動、教師の指導・支援等について観察・記録しレポートにまとめる。さらに、観察したことがらを基にして学習指導案の作成、模擬授業を行いその結果をレポートにまとめる。</p>  |      |
| 小学校<br>教員<br>養成<br>特別<br>コース | 専<br>門<br>科<br>目 | 教育実地基礎研究<br>I (レポート作成<br>法の研究)<br>・(Practical<br>Education for<br>Prospective<br>Teachers I)  | <p>(概要)</p> <p>この授業では、レポート・論文・実践研究報告書・実地教育に必要な実習記録の書き方やまとめ方について基本的な知識を学び、さらに、これらを実際に作成することで実践的な技術を養う。具体的には、①レポートや論文の「内容・構成・展開・書式」について基本的な考えやルールを学ぶ。②これらの書き方の手順に従って、実際にレポート(または論文)を作成し、そのプロセスで実践的な能力を養う。また先行研究にあたることにより、自ら研究していく態度を養う。③実習記録は、実際の授業のビデオ観察を通して、授業記録のとり方を実践する。④プレゼンテーション能力を培うために、作成したレポート(または論文)、授業記録の発表を行い、同時に評価法について学ぶ。この授業ではきめ細かな指導を実施するため個別指導形態で行う。したがって、4名の担当教員により履修者を3グループに分ける。</p> <p>(共同方式／全15回)</p> <p>(43 別惣淳二, 45 前芝武史, 40 千駄忠至, 兼担 田畑八郎／15回)</p> <p>上記の内容について、担当グループの学生の個別指導を行う。別惣淳二が本授業全体を統括する。</p>   | 共同方式 |
| 小学校<br>教員<br>養成<br>特別<br>コース | 専<br>門<br>科<br>目 | 教育実地基礎研究<br>II (教育実践研究<br>法の研究)<br>(Practical<br>Education for<br>Prospective<br>Teachers II) | <p>(概要)</p> <p>この授業では、1) 授業分析の手順、質的データや量的データの分析方法、質的データを量的データに加工する方法等について理解する。2) 分析結果から長所や短所の原因を究明し、改善策を設定することができることを目標とし、講義、演習を通して自分の授業改善を図る基本的な知識・技術を修得させる。</p> <p>(共同方式／全15回)</p> <p>(43 別惣淳二／2回)</p> <p>第1回と第2回を主に担当し、教育実践研究の動向とその目的や、質的・量的な分析方法の特徴とその適用場面などについて講義する。</p> <p>(40 千駄忠至／4回)</p> <p>第3回から第5回までと第10回を主に担当し、授業記録やその分析方法、仮説設定、学習結果の収集など、授業研究の目的や方法、具体的な手順等について講義する。</p> <p>(41 鈴木正敏／4回)</p> <p>本授業全体を総括するとともに、第6回から第9回までを主に担当し、既存のVTR記録を基にした授業分析を質的・量的な面から行う際の留意点などについて講義を行い、その後演習を行う。</p> <p>(42 大西久／4回)</p> <p>第11回から第14回を主に担当し、授業研究と教材研究の関連性を中心に、学校教育現場における教育実践研究の意義について講義すると共に、実際の連携協力校でのデータ収集を統括する。</p> | 共同方式 |

|                              |                  |   |  |         |
|------------------------------|------------------|---|--|---------|
|                              |                  |   | (43 別惣淳二, 40 千駄忠至, 41 鈴木正敏, 42 大西久／8回)<br>演習は、担当者全員が担当し、それぞれがいくつかの班に対して具体的な指導をする。第6回から第9回までは、班ごとに授業分析を行う。また、第11回から第14回までは協力校でデータを収集し、班毎に設定したテーマに沿った方法で分析・発表する。結果は全体で討議し、再吟味した後に最終報告書として提出する。第15回は全体でまとめを行う。  |         |
| 小学校<br>教員<br>養成<br>特別<br>コース | 専<br>門<br>科<br>目 | 教育実践研究（アクション・リサーチ<br>（Action Research<br>in Education）  | （専任教員全員，兼担 大辻裕彦，兼担 田畑八郎）<br>この授業は、自らの課題意識に基づいて、教育現場の実践課題を課題解決をすることによって、アクションリサーチの力量を養うことを目標とする。1～2年次の学習結果から各自が「逆上がりの効果的指導法」「コミュニケーションの苦手な児童への対応方法の開発」等の実践課題を設定し、協力校の研究テーマや課題と関連する実践課題となるよう協力校の教諭、大学教員の3者で協議し決定する。この実践課題に対して仮説を設定し、3者の協働による探求的活動として協力校で取り組み仮説を証明する。<br>授業方式はゼミ方式とし通年で実施し、中間発表で動機、目的、方法について、最終発表で結果・考察等について発表する。<br>研究成果を動機、目的、方法、結果、考察、今後の課題にまとめ報告書を作成する。<br>本授業全体は千駄忠至が総括する。   | 共同方式    |
| 小学校<br>教員<br>養成<br>特別<br>コース | 専<br>門<br>科<br>目 | 教科の内容・指導法研究Ⅰ（国語科・音楽科）<br>（Research on<br>Content and<br>Teaching Methods<br>of Subjects I<br>（Japanese/Music） | （概要）<br>国語科と音楽科の教科内容と指導法について、単元事例に関する授業づくり（単元目標を踏まえた教育内容と観点別評価の設定、児童理解を踏まえた教材づくりと指導法など）を通して実践的に研究し、その理論と方法を習得する。授業は演習を主体とし、前半（第1回～第8回）は国語科、後半（第9回～第15回）は音楽科に関して、班単位で行い、教員はその過程で必要に応じて講義し指導を加える。なお、各教科で1度は実際の学校現場に出向き、授業や児童の様子を観察する。<br><br>（オムニバス方式／全15回）<br><br>（39 吉川芳則／8回）<br>特定の教材を例に、教材研究や単元計画、授業デザイン、評価のあり方等の観点から、国語科の授業づくりの留意点を見出すことを目指す。授業は演習形式を中心に、協力校における観察予定授業の教材について、単元計画および1時間の授業展開、評価等からなる授業プランを作成するとともに、学校現場での授業観察と協議内容を生かして修正・改善し、最終の授業プランとしてまとめ、発表させる。なお、吉川芳則が本授業全体を総括する。<br><br>（58 岡本信一／7回）<br>授業観察、学習指導案の作成、模擬授業、討議を班毎で展開することにより、音楽科の教材研究や授業構成の力量を高めることを目指す。単元計画や学習指導計画案の作成と模擬授業の結果に至るまでの過程をレポートにまとめさせる。 | オムニバス方式 |

|                              |                  |  |   |         |
|------------------------------|------------------|--|---|---------|
| 小学校<br>教員<br>養成<br>特別<br>コース | 専<br>門<br>科<br>目 | 教科の内容・指導<br>法研究Ⅱ（算数科<br>・図工科）<br>（Research on<br>Content and<br>Teaching Methods<br>of Subjects Ⅱ<br>（Mathematics/<br>Art））                                  | <p>（概要）<br/>算数科と図工科の教科内容と指導法について、単元事例に関する授業づくり（単元目標を踏まえた教育内容と観点別評価の設定、児童理解を踏まえた教材づくりと指導法など）を通して実践的に研究し、その理論と方法を習得する。授業は演習を主体とし、前半（第1回～第8回）は算数科、後半（第9回～第15回）は図工科に関して、班単位で教材研究から模擬授業・評価までを行い、教員はその過程で必要に応じて講義し指導を加える。なお、各教科で1度は実際の学校現場に出向き、授業や子どもの様子を観察することを原則とする。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（44 加藤久恵／8回）<br/>算数科の内容・指導法を担当する。算数科では、協力校の事情を踏まえて選定された単元事例に関して単元指導計画を作成し、模擬授業を通して単元指導計画の妥当性を検討することで、教科の実践的指導法を身につける。算数科の授業で第一に求められるのは、児童自身による知識の構成である。その際に、算数的活動を取り入れることで知識の構成が促進される。この授業では教具を用いた授業づくりを学習することで、知識の構成を促す算数的活動を取り入れた授業づくりを学習することを目指す。</p> <p>（37 初田隆, 42 大西久／7回）<br/>この授業では、図画工作のもつ創造的な表現活動や鑑賞による感性の育成における重要性を理解し、実際の授業づくりを通じた分析や考察により実践力を養うことを目的としている。具体的な内容としてリサイクル素材である紙パックを利用した教材を開発していく。まず教材内容、指導法などを検討し、さらには学校現場での授業の実践を通して様々な角度から分析、考察を行い、より良い教材、授業計画づくりに取り組む。この授業（図工）には2名の教員が指導にあたる。なお、大西久が本授業全体を総括する。</p> | オムニバス方式 |
| 小学校<br>教員<br>養成<br>特別<br>コース | 専<br>門<br>科<br>目 | 教科の内容・指導<br>法研究Ⅲ（社会科<br>・家庭科）<br>（Research on<br>Content and<br>Teaching Methods<br>of Subjects Ⅲ<br>（Social Studies/<br>Family and<br>Consumer<br>Science）） | <p>（概要）<br/>社会科と家庭科の教科内容と指導法について、単元事例に関する授業づくり（単元目標を踏まえた教育内容と観点別評価の設定、児童理解を踏まえた教材づくりと指導法など）を通して実践的に研究し、その理論と方法を習得する。授業は演習を主体とし、前半（第1回～第8回）は社会科、後半（第8回～第14回）は家庭科に関して、班単位で教材研究から模擬授業・評価までを行い、教員はその過程で必要に応じて講義し指導を加える。第15回は総括の時間とする。なお、各教科で1度は実際の教育現場に出向き、授業や子どもの様子を観察することを原則とする。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（36 原田智仁／8回）<br/>本授業全体を総括するとともに、社会科の内容・指導法を担当する。社会科では、協力校の事情を踏まえ選定された単元事例に関して授業モデルを創造し、模擬授業を通してモデルの妥当性を検討することで、教科の実践的指導法を身につける。社会科の授業づくりで第一に求められるのは教育内容の科学性である。それゆえ専門科学の知見を踏まえて知識を構造化する意義を理解させる。また、児童理解に基づく教材選択と学習活動の組織化も重要である。そこで、学校現場での授業や児童の観察、教師への聞き取り等を通して、児童理解を深めることにも留意して進める。</p>  | オムニバス方式 |

|                              |                  |   |  |         |
|------------------------------|------------------|---|--|---------|
|                              |                  |   | <p>(22 永田智子／8回)</p> <p>家庭科の内容・指導法を担当する。家庭科では、協力校の事情を踏まえ選定された単元事例に関して授業モデルを創造し、模擬授業を通しモデルの妥当性を検討することで、教科の実践的指導法を身につける。家庭科の授業づくりで第一に求められるのは実践的体験的活動の導入である。しかし、児童に活動させるだけにとどまらず、理解を深めさせるための授業づくりをすることが肝要である。そこで、学校現場での授業や児童の観察、教師への聞き取り等を通して、児童理解を深めることにも留意して進める。</p>   |         |
| 小学校<br>教員<br>養成<br>特別<br>コース | 専<br>門<br>科<br>目 | <p>教科の内容・指導法研究Ⅳ（理科・体育科）<br/>（Research on Content and Teaching Methods of Subjects Ⅳ (Science/Physical Education)）</p>                               | <p>（概要）</p> <p>理科と体育科の教科内容と指導法について、単元事例に関する授業づくり（授業内容と観点別評価の設定、児童理解を踏まえた教材づくりと指導法）を通じて実践的に研究しその理論と方法を習得する。授業は演習を中心に行い、第1回から8回までは体育科、9回から15回までは理科を行う。班単位で教材研究、模擬授業、評価を行う。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>(35 松下健二／8回)</p> <p>本授業全体を総括するとともに、体育科の内容・指導法を担当する。体育科では授業の中核である運動技術の指導法を確立させるためにまず運動技術のメカニズムを自己の実技能力を高める過程で理解し、それを基にして指導能力を育成し、最終的に体育授業全体を作り上げる能力を育成することを目的としている。具体的な内容として典型的教材として運動領域では「短距離走・リレー」を、保健領域では「けがの防止」をとりあげ教科内容の理解と指導法等を実地研究での授業実践を経験を基にして分析・検討し、より良い授業づくりに取り組む。</p> <p>(11 上西一郎／7回)</p> <p>理科の内容・指導法を担当する。班毎に関連のある学習内容の配列や発展的な内容について、教材相互の関連を考慮した指導順序を検討し学習指導計画案を作成する。また、観察、実験、栽培、飼育等について視聴覚機器・情報機器を使用した指導法を工夫し、安全への配慮事項を検討することを通して、授業構成力や実験に関する力量を高める。</p> | オムニバス方式 |
| 小学校<br>教員<br>養成<br>特別<br>コース | 専<br>門<br>科<br>目 | <p>教科の内容・指導法研究Ⅴ（生活科・総合学習・英語）<br/>（Research on Content and Teaching Methods of Subjects Ⅴ (Life Environment Studies/Integrated Studies/English)）</p> | <p>（概要）</p> <p>この授業では生活科と総合学習・英語における単元事例に関する授業づくり（授業内容と観点別評価の設定、児童理解を踏まえた教材づくりと指導法）を通じて実践的に研究しその理論と方法を習得する。授業は演習を中心に行い、第1回から第5回まで生活科、第6回から第10回まで総合学習、第11回から第15回まで英語を行う。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>(38 關浩和／5回)</p> <p>本授業全体を総括するとともに、生活科の学習内容と指導法について、自らの研究テーマに関連づけ、より理論的に考察を深め、今日的課題と総合的、実践的指導力を育成することを目標とする。生活科の典型的な単元事例の授業観察と分析を通して、授業づくりの理論と方法についての理解を深める。さらに、空間的認知能力を育成する単元開発と評価を各班毎で実施することを通し、実践上の諸問題と課題を指摘できる力量を身につける。単元の開発結果は報告書にまとめる。</p>   | オムニバス方式 |

|              |      |                 |  |  |
|--------------|------|-----------------|--|--|
|              |      |                 | <p>(14 松本伸示／5回)<br/>総合学習の学習内容と指導法について、地域の特色を生かした単元開発や評価をすることを通して実践的指導力を身につける。単元の開発結果は報告書にまとめる。</p> <p>(93 高橋美由紀／5回)<br/>英語では、教師主導の英語教育ができるように、小学校英語の諸理論と実践的な指導の知識・実践的指導力を養成することを目標とする。資料を基にして小学校英語の意義、成果、課題、カリキュラムについて講義・討議をし理解を深める。さらに、協力校の英語授業の観察やその分析、ワークショップでの視聴覚教材・マルチメディア教材の作成とそれらを用いた模擬授業を通して実践的指導力を身につける。</p>                                  |  |
| 小学校教員養成特別コース | 実習科目 | 実地研究Ⅰ（基本実習）     | <p>（専任教員全員）<br/>この授業は連携協力校で実施する4週間の実習である。この実習では、アシスタント・ティーチャーとして配属学級の教科指導、特別活動ならびに総合学習の指導に関わるとともに、学生が教科の授業を行うことにより、その指導に必要な内容・方法及び技術を習得する。大学教員は、学生に事前指導を行うとともに、訪問指導として2週間に1度連携協力校を訪問し、学生の授業等を観察した後、反省会として指導教諭、大学教員、学生の3者によるチーム・コンサルテーションを実施する。</p>   |  |
| 小学校教員養成特別コース | 実習科目 | 実地研究Ⅱ（発展実習）     | <p>（専任教員全員）<br/>この授業は、実地研究Ⅰの成果を発展させるために同一校で行う8週間の実習である。この実習では、アシスタント・ティーチャーとして配属学級の教育活動に参加し、①実地研究Ⅰの実習内容に加えて道徳の授業、生徒指導、特別支援教育、学校事務を行い、それらの内容・方法及び技術を習得する。また、②自己の得意教科の実習や、③1～2週間、学級担任業務の実習を通じて小学校教師に必要な実践的力量を育成する。大学教員は訪問指導として2週間に1度連携協力校を訪問し、反省会として指導教諭、大学教員、学生の3者によるチーム・コンサルテーションを実施する。</p>  |  |
| 小学校教員養成特別コース | 実習科目 | 実地研究リフレクションセミナー | <p>（専任教員全員）<br/>この授業は、「実地研究Ⅰ・Ⅱ」の期間中に週1日大学において行う実習の事前事後指導である。この事後指導では、学生が実習日誌に基づいて実習体験を省察し、実践を理論的に意味づけるとともに、次週の自己課題を発見することをねらいとしている。そのため、ナラティブ・アプローチを採用して、1週間の出来事を時系列に沿って、他者が読んでも理解できる文章を作成する。これを各班に分かれて発表しあい、メンバーや教員との討議を通して文章を練り直す。大学教員はこの文章をもとに学生の事前事後指導を行い、次週の实習課題を明確にする。これらの活動を12週繰り返す、学生は最後に各週のレポートを総括レポートにまとめて発表する。最終的に成果発表会において各班の報告書を発表する。</p> |  |
| 小学校教員養成特別コース | 実習科目 | インターンシップ        | <p>（専任教員全員）<br/>この授業では「実地教育Ⅰ・Ⅱ」の成果や課題を踏まえて、同一校でインターンとして教育活動の一端を責任持って担い、通年で60時間以上の教育支援活動を行う。2年次の「リフレクションセミナー」から抽出した各自の課題から実践的課題を設定し、その課題解決に向けた活動計画書を各自が作成する。その活動計画書を配属学級の指導教</p>  |  |

|  |  |   |  |
|--|--|---|--|
|  |  | 論に提出し、許可を受けてからインターンシップを実施する。コースの専任教員は学生の計画書を基に適宜訪問指導を行い、指導教諭・大学教員・学生の3者によるチーム・コンサルテーションを実施する。 |  |
|--|--|---|--|